

父親・男性研究Ⅳ

－ M・SCT (母親用文章完成法) による検討 F・SCT (父親用) との比較も含めて －

愛育相談所	川井 尚・安藤朗子・武島春乃・山内浩子
	永井桃子・堤 道子・庄司順一
研究企画・情報部	中村 敬
愛育病院心理福祉室	小玉夕香
愛育幼稚園	岸井慶子
愛知教育大学	恒次欽也
嘱託研究員	渡邊 寛 (彩の子ネットワーク)・大藪 泰 (早稲田大学)
	馬岡清人 (埼玉工業大学)・鈴木眞弓 (東邦大学医学部附属大橋病院)
	平岡雪雄 (浦安市教育委員会)・島 智久 (浦安市教育委員会)
	伊藤嘉余子 (福島学院大学)・山岡 テイ (情報教育研究所)
	木邨真美 (大阪府衛生会附属診療所)・栗原佳代子 (神奈川工科大学)
	谷口和加子 (元リサーチレジデント)

【要 約】

今年度は 448 人の母親を対象に、M・SCT を施行しその分析、検討を行った。その分析方法は、①M・SCT の反応分類とその頻度の傾向、②M・SCT の領域間の相関関係、③選択式質問項目と M・SCT 項目とのクロス集計からの関係をみた。これらを前年度の父親 F・SCT の結果とも比較しながら検討を行い、母親・女性の本態に関してある程度の知見が得られたので報告した。①32 項目領域ごとに各項目の頻度の多いものを検討し、心理臨床検査として活用する基礎資料となるものであることが認められた。さらに、前年度の F・SCT では各領域ごとにみたところ叙述・考え方が多かったが、M・SCT では情緒性や関係性に基づく回答が多い傾向にあった。主観的な回答が多いことが母親・女性の特徴と考えられる。②各領域ならびに合計点間で相関係数を検討したところ F・SCT では相互間の相関が高かったが M・SCT では比較的相関値が低い傾向にあり、母親の反応の多様性が指摘された。③クロス集計し、統計的に有意なもののみ取り上げた。一連の結果から、母子関係のありようは自分自身の両親との関係とも深く関連していることが推測された。これは昨年度の父親・男性研究でも明らかであり、重要な知見である。

見出し語: 女性性, 母子関係, 母親自身の親子関係, 家族・夫婦関係

A Study on Paternal and Masculine Gender Role IV -The Analysis of the Sentence Completion Test for Mother(M・SCT)-

Hisashi KAWAI, Akiko ANDO, Haruno TAKESHIMA, Hiroko YAMAUCHI, Momoko NAGAI, Michiko TUTUMI, Junichi SHOJI, Takashi NAKAMURA, Wakako TANIGUCHI, Noriko NAGASAKA, Yuka KODAMA, Keiko KISHII, Kinya TUNETUGU, Yutaka WATANABE, Yasushi OYABU, Kiyoto UMAOKA, Mayumi SUZUKI, Yukio HIRAOKA, Tomohisa SHIMA, Kayoko ITO, Tei YAMAOKA, Mami KIMURA, Kayoko KURIHARA

Abstract: We carried out the M・SCT for 448 mothers and analyzed the responses as follows; 1)to classify the responses and to show frequency ratio of the classification, 2)to examine the correlations among 5 fields of the M・SCT, and 3)to examine the relations between the questionnaire items and the responses of the M・SCT. Furthermore, we investigated these results compared to these of F・SCT. The following are the results of 1)~3): 1) the classification of the M・SCT were appreciated that we can utilize it for one of psychological tests in the clinical setting. In the F・SCT, the most responses were descriptive while the responses in the M・SCT were mostly emotional or human related issue. Accordingly, the results suggest that mothers (feminine gender) have the common tendency since their answers were subjective; 2) the correlations among 5 fields of the F・SCT were high while these of the M・SCT were low. These indicate that the responses of mothers (feminine gender) show various contents; 3) in conclusion, mother and child relationship strongly related to the experience in parents-child relationship that mother herself had. This point suggests very important aspect since the same results were also found in the last study on the F・SCT.

Keyword: feminine gender, mother and child relationship, mother and child relationship of mother herself, family / couple relationship

I 研究目的

昨年度の本報告では父親用文章完成法（以下F・SCT）に関して、次の研究知見が示された（川井ほか、2004）。

①F・SCTの反応分類とその頻度の傾向、②F・SCTの領域間の相関関係、③選択式質問項目とF・SCT項目とのクロス集計からの関係、④データマイニング手法（パーティション法）による、F・SCTの項目間の関連についての分析を行い、父親・男性の本態に関してある程度の知見が得られた。①各領域毎にみたところおおむね叙述・考え方が多く、父親・男性の一般的傾向を示すものと考えられた。ただし、領域Ⅳ「父親自身の親子関係」のみ関係性が多かった。②各領域ならびに合計点間で相関係数を検討したところ合計点、領域Ⅰ「育児を含む父子関係」、Ⅱ「家族・夫婦関係」、Ⅲ「父親自身・男性性」の3つの領域間では比較的高い相関が得られた。③クロス集計し、統計的に有意なもののみ取り上げた。一連の結果から、子どもの心の問題は母子関係にのみ起因するものではなく、父親（夫）、母親（妻）、そして子どもという3者の関係、さらには父親（夫）自身の親子関係のありようも加わりもたらされるものと考えてよいと思われた。④パーティション分析全体を通して明らかされたことは、あるパターンに入る父親（夫）たちが心の臨床からみて要注意であり、援助の必要性が示された点であった。また、男性像の認識が家族像、自己の将来像、夫婦関係、子どもとの関係に影響する一要因となり得ることが示唆された。

今回はこの一連の結果を受けて、母親用文章完成法（以下、M・SCT）に関して同様の分析を行い（ただし、パーティション分析を除く）、M・SCTの分析とF・SCTとM・SCTとの結果の比較を行ったところ、いくつかの知見が得られたので報告する。

II 研究方法

1. 調査方法

平成13年度に報告した方法と同じである。したがって、簡単に述べる。父親用文章完成法（F・SCT）ならびに、その母親版にあたる母親用文章完成法（M・SCT）を、下記に述べる各地の幼稚園、保育所等を通して配布し、回収した。

M・SCTは32項目、5つの領域から構成されている。その領域は、Ⅰ. 育児を含む母子関係（12項目）、Ⅱ. 家族・夫婦関係（7項目）、Ⅲ. 母親自身・女性性（9項目）、Ⅳ. 母親自身の親子関係（2項目）、Ⅴ. 社会（友人・仕事）（2項目）である。また、多肢選択式質問項目は1. 母親（妻）の役割、2. 子どもとの関わり・子育て、3. 両親との関わり、4. 両親の親としてのあり方、5. 大

事にしたい生き方、6. 妻・母親としてのあり方、7. 妻・母親役割（選択肢は各10項目あり、そのうちの2つまで選ぶ）である。

質問紙の作成経過などの詳細は平成13年度報告を参照されたい（川井ほか、2002）。

2. 調査対象

調査対象はおもに、幼稚園、保育所、子育てサークル等に通所する児をもつ親である。回答の際には両親が相談したり、見せ合うことなく単独に回答するよう特に求めた。

対象地は東京、秋田、埼玉などで回収率は80%程度である。なお、今回分析の対象としたのは、乳幼児を有する親であり、かつ、両親がペアで回収できたもの448組であり、全体回収数の45.5%である。ペア回収数が少ないが分析年齢対象外を全体から外すと63.1%がペア数となる。

対象者の属性は夫の平均年齢35.4歳、妻33.1歳、子どもの平均数は1.7人、夫の平均週労働時間50.7時間（±13.2）、妻は33.2時間（±14.7）、夫の勤務形態は主に日勤90.3%、妻の仕事では主婦が60.9%、常勤21.3%、パート・アルバイト9.4%、自営業3.6%、休職中2.2%などであった。夫の再婚者は5.6%、妻は2.7%である。夫の両親ともに健在なのは73.8%、妻は77.9%だった。ボランティアなどをしていいる夫は13.1%、妻は10.6%である。

3. 結果の整理方法

M・SCTは昨年度報告したF・SCTと同様に反応の力テグリー化を行った（表1参照）。その結果、主な反応として5つ（A～E）のカテゴリーが抽出され、さらにD（困惑、当惑）以外は、内容によって肯定的（+）、両義的（±）、否定的（-）があり、平成13年度と異なるのはA：情緒性、B：関係性、C：叙述・考え方、D：困惑・当惑、E：その他、R（回答拒否）とF（回答失敗）および無回答の6カテゴリー（6分類、R、F、無回答を1カテゴリー（分類）として）になったことである。この一連のカテゴリー化はSCTの質的分析と量的分析とをある程度両立させるために行ったものである。この表1の反応分類評価に基づいて、SCTの反応すべてをコード化した。このコードに基づき、分析をより単純化し、数量化するために、さらに肯定的反応に「1」、否定的反応に「-1」、両義的、無回答、ニュートラルには「0」を配点し、再カテゴリー化（3分類）をはかった。

これらのデータに基づき、今回は次の4つの視点から検討を行った。いずれも昨年度のF・SCTの報告の際に行ったものであるので父親版との比較を試みた。

①M・SCTの反応分類とその頻度の傾向に関しては、上に述べた反応分類に基づき、あらかじめ区分してある5領域（領域Ⅰ「育児を含む母子関係」12項目、領

域Ⅱ「家族・夫婦関係」7項目、領域Ⅲ「母親自身・女性性」9項目、領域Ⅳ「母親自身の親子関係」2項目、領域Ⅴ「社会(友人・仕事)」2項目)ごとにその反応頻度をまとめた。これをF・SCTと比較した。

②M・SCTの領域間の相関関係に関しては、反応を上記のように得点化し、それに基づき領域ごとの得点合計を算出し、さらに、総点を求め、ピアソンの相関係数を算出した。これも同様に父親版と比較検討した。

③選択式質問項目とM・SCT項目との関連については、上述した3分類と、選択式質問項目とをクロス集計した。

選択式の場合、1. 母親(妻)の役割、5. 大事にしたい生き方の2項目は回答が一つの選択肢に集中したためにクロス集計からは外した。いずれも χ^2 自乗検定を行い、統計的に有意なもの($P<0.05$)であることと意味的に意義のあるもののみを結果として取り上げた。

Ⅲ 結果と考察

1. M・SCTの反応分類とその頻度の傾向に関して

(その1) 表2参照

はじめに、項目ごとの各反応に関して、8%以上の頻度を示した反応を取り上げてその結果を概説する。おおむね8%の頻度でも少ないとはいえず、ほとんどが上位3から4位以内に収まることから基準として選んだものである。また、多くの項目において少数の反応頻度を示すことが多いが、さまざまな思いを正確にコード化しようとする表2に見られるような結果となった。また、この少数の反応の中でとりわけnegativeな反応を示した母親たちにはおそらく心理臨床的な問題を抱えている可能性が否定できないが、今回は個々にはとりあげず今後の課題としたい。()内は頻度で%である。

1) 領域Ⅰ(育児を含む母子関係)

項目2「子育ては」

「①-2 大変だが喜び、幸せ、うれしい、楽しい(19.2)」が多く、ほぼ同頻度で、「⑤叙述→自分育て・共に育つ・生きがい・やりがい・体力・忍耐・責任・主人と家族と一緒に～したい(18.8)」ついで、「④-1. 楽しい→幸せ・よろこび(8.5)」④-3. 楽しい→ハード・疲れる・むずかしい・大変(8.5)」①-3. 大変→子どもの：笑顔に元気・勇気と笑顔を与える・いとおしい(8.0)」である。子育ての大変さはあっても快の情緒や子育てが自身の成長につながっているとの認識を示すことが多い。その裏返しとして楽しいけれども大変ということばの入れ替わりがみられる。この入れ替わりがどれほどの違いがあると言えるかはわからないが、後者の方が子育ての疲労感や、苦勞が強調されているといえるだろう。

項目5「しつけ」

「③叙述 1. 親の責任・義務・親が見本(16.1)」
「③叙述 2-c. 子どもが→常識的なことを身につける・将来のために必要(11.6)」⑪その他 E+(9.8)」①大切、重要→むずかしい・etc. (9.6)」であった。叙述による客観的、ないしは建前的な回答が上位を占めている。一方で、他の反応をみると「しつけ」は情緒的に多様な反応を生じさせている項目であるともいえる。

項目6「子どもと私は」

「①-2. よい関係→仲よし親子・とても仲よく(12.5)」①-3. よい関係→信頼しあっている・気持ちを通じ合っている求め合っている・身近で密接した関係、密度の濃い関係(11.2)」④叙述 4. よい親子関係を築きたい・程よい距離・自立した関係を(9.4)」⑥その他 E(8.7)」であった。現在、良好な関係を保っているものが多く、これから良好な関係を築きたいものもある。

項目11「私にとって子どもは」

「①-2. 宝物→宝物・元気づけられる・生きる活力・励ましを(25.7)」②かけがえのない・なくてはならない(22.1)」④-2. 大切→大切・大切な家族(12.1)」であった。合わせると6割を超え、子どもの存在が非常に重要であることが示されている。

項目12「子どもが生まれてから」

「②子ども中心に→私だけの世界から子ども中心の世界へ・子ども最優先・全て子ども中心(12.5)」⑥-1. 忙しい・無我夢中・自分の時間がない(12.5)」①-4. 母親自身のpositiveな変化(考え)→価値観が変わった・人生観が変わった・自分をみつめるようになった・物の見方が変わった(11.4)」④母親自身、positiveな感情→幸せな気分・家の中楽しく・楽しみ倍增・楽しい・今までにない喜怒哀楽・笑うことが(10.7)」であった。子ども中心で、それに忙殺されることとともに、世界観、幸福感の変化をも与える大きなできごととしてとらえられていることがわかる。女性のライフサイクルにおけるこの大きなイベントに関してその影響が及ばないとすればその母親は何らかの問題を抱えている可能性が考えられる。

項目14「子どもといると私は」

「①-1. 情緒的、positive→幸せ・楽しい・うれしい・よく笑う・明るい気持ち・愛しい(18.3)」③楽しく、心が安らぐ⇔negative→疲れて・悲しい・イライラ・うっとおしいところも(15.0)」であった。快の情緒か、快とnegativeな両価的な心情に彩られている。おそらく母子のあり方がそのまま反映されたものと思われる。

項目15「夫と子どもは」

「②-1. 良い関係、仲よし→よい遊び仲間・仲のよい友達のように・よく遊んでいる(27.2)」①仲よく

ー楽しい、等、Positive な感情→たのしそう、気が合っている、CもFが大好き、信頼している (10.3)」「③-1. 仲よしーよく遊びー母親が Positive に受けとる (10.0)」「②-2. 良い関係、仲よし→つよく結びついている (8.9)」であった。妻からみた夫の子どもとの関係は半数強が良好な関係としてとらえられている。この点で母親自身の子どもとの関係のありようとはかなり異なっていると言える。おそらく夫には育児の苦勞があまりない、あるいは子育てをしていないという認識が根底にあるように思われる。

項目18「子どもにとって私は」

「③-1. positive な存在としての母親→最終的に母・すべて感じとる・必要とされる・大事な母・かけがえのない母 (17.9)」「⑤-2. ~の母でありたい→しっかりとした頼れる母・尊敬できる母・どんな時でも全てを受けとめてあげられる母で (11.8)」であった。実際に子どもにとって重要な存在であるという認識と、そのようでありたいという願いとがあることが特徴的である。このことが母親の役割として母親自身によって意識化されていることがらなのだと考える。

項目22「子どもは私を」

「①-1. 頼りに・信頼・甘えて・求めて→頼りにしている・慕っている・信頼して・頼って・甘えてくれる・求めて甘えてくる (23.2)」「③-1. 子どもが私をー大好き、positive に→大好き・無条件に好いてくれる (15.4)」であった。子どもが母親の役割の一面を受け止めてくれていることや肯定的に認識してくれているととらえている。こうした認識が子どもを通してもてないとすれば、母子関係に何らかの問題が生じているのかもしれない。

項目23「もし子どもが」

「①-1. 病気、事故⇒心配、不安、恐怖⇒常に心配・怖い・不安・気が気でない・ぞっとする・生きた心地がしない (16.5)」「②-1. いなくなったら→どうすればいいか耐えられない・狂ってしまう・生きていられない・私はどうなるんだろう・絶望 (12.3)」「④-1. いなかったら→さみしい人生・つまらない人生 (10.0)」であった。この仮定・想定質問に関しては悪い予想をたててそれに対しての想いを述べるものがほとんどである。子どもの悪い予想を考えるとそれだけで辛い思い、これは項目11「私にとって子どもは」の裏返しとも言える。

項目26「子どもがいうことをきかないと」

「②-1. おこる・言葉の暴力→イライラしておこってしまう・腹が立つ・おこりすぎ・頭にきてガミガミ・怒鳴っている・切れるときがある・腹が立つことばの虐待かも (言葉・行動を伴うもの) (23.0)」「②-2. おこる・言葉の暴力→むかつく・自分の思い通りにならないとイライラ (感情) (10.5)」「⑤話し合う→よく話すように→話し合う・意見をきいて・話し合い

分ってもらようよう努力 (9.6)」だった。多くが negative な感情の表出で、冷静に対応しようという母親は少ない。乳幼児健診などの育児相談で、母親のこの訴えが多くみられ育児の大変さの多くはここにかかっているといえる。

項目29「子どもの気持ち」

「①-1. 分って・理解して・大切に→positive→分ってあげたい・分りたい・大事にしたい・大切に聞き入って (23.7)」「②-2. 分って・大事に→十分でない→大事に→その通りできない・きちんと受けとめられているか・尊重したいがむずかしい (理想と現実) (11.6)」「④-1. 理解できる・分る・母親になりたい・ありたい→叙述、positive→よく理解できるようになりたい・分かる自分に成長したい理解できる母でありたい・分りたいと常日頃努力 (建て前的) (11.4)」であった。子どもの気持ちを理解したいという想いと、実際の困難さとが現れたものである。

育児を含む母子関係の領域全体を見たとき、何もないときは子どもがいとおしく、関係も良好であり、母親としても幸福感に満たされる。しかし、子どもがいうことをきかない、しつけといった事態となればさまざまな negative な想いや両価的な感情にいろどられる。他方、夫と子どもの関係 (項目15) は基本的に良好と認識している。

2) 領域Ⅱ (家族・夫婦関係)

項目4「夫と私は」

「④夫婦仲→positive→けんかもし仲がよい・愛している・気がおけない仲 (26.3)」「①-1. 会話・話し合い・話し合える→理解・価値・尊厳・パートナー→会話が多い・何でも話し合える・認め合っているよき理解者・互いに必要・協力し合って (13.8)」「①-2. 会話・話し合い・話し合える→理解・価値・尊厳・パートナー→尊敬、尊重し合い・根強い絆・大切にしたいパートナー・補い合い受容し合っている (11.4)」「⑧その他 E (9.6)」であった。夫婦関係は6割程度が良好な関係という認識であった。

項目17「私の居場所は」

「①家庭・家・家、実家 (31.9)」「⑤-1. 夫と子ども→positive→夫と子どもいつも笑いが・いきいき輝いていること・夫子どものいる家・夫、子どもたちの中心で・一緒に遊んで一番おちつく・子どもが笑い夫が笑いその中に私がいる・子どもがいて夫が帰ってくる場所・私を必要としてくれる子どもと夫 (10.7)」であった。3割の母親が家、実家等を挙げて自分が居住しているないし、していた物理的な場がそのまま居場所となっている。それを具体的に述べたのが、夫や子どものいる状況で、心理的な居場所のありようを指摘したものとなっている。

項目20「家にいると」

「①-1. 寛ぐ、安らぐ→positive, 気持ち→ゆつく

り・のんびり・リラックス・安心・ほっと・満足・幸せ・落ちつく・気が楽(30.8)」「⑥忙しい→つい仕事をして貧乏性・休む時間なく動きまわる・一日中バタバタ・家事、時間に追われめまぐるしく過ごして・限りなく家事、忙しすぎて(19.0)」であった。これも項目17の「私の居場所は」と関連しており、居場所のpositiveな様相を示している。他方で、家庭内の仕事に忙殺されている状態も指摘されている。

項目21「夫が病気になると」

「②-1. 心配、不安→他のことが手につかない・とても気になる落ち込む・家が暗くなる・心細く不安・オロオロ・すごくショック・淋しくなったり・私が頼りすぎかも・悲しくなる・心配・不安(21.4)」
「①-5. 困る→困る・大変(15.2)」
「④-1. 私が夫を→守ってあげたい気持ちになる・夫への愛情感じる・私が助けてあげたい・私にできるところは何でもする・できる限りそばにいてあげたい・精神的な支えに・子どもに与えるやさしさを夫にも(10.3)」
「①-1. 困る→健康に気がつかっている・健康であるよう願って・早く元気になって(8.5)」であった。夫の病による自分の気がかり・心配、困惑が中心的な回答であるが、妻として夫を守るという気概を示す回答も少なくない。

項目30「性生活」

「③叙述 1. 夫婦仲よくには必要・夫婦が生活する基本・夫婦にとって大切なもの・大切、スキンシップ(18.8)」
「⑧その他 E(15.0)」であったが、おおむね、建前に近い回答が多い傾向にあった。性生活については触れたくない思いが多いようである。

項目31「私にとって家族は」

「①-1. 宝物・大事・大切→positive→かけがえのない宝物・なくてはならないもの・一番大事全て・絶対の存在・大事(37.5)」
「③大切→なくしたくないもの・最もおちつく心を開ける人たち・心の支え・絆・やさしい存在・生きていく支え・愛情の対象・支えていかななくてはならないもの・大切(25.0)」で、6割強が極めて重要な存在であることを指摘している。

項目32「夫とふたりでいると」

「①-1. positive→感情→楽しい・安心・信頼・リラックス・のんびり・寛ぐ・心休まる・ホッとする・落ちつく・心が和む・自分らしくいられて幸せ・静かで安らぐ・おだやかに安心(31.5)」
「①-2. positive→感情→今でも恋人のような気持ち・話し甘えられる・どこかでふれ合っていたい・普通の話が楽しい(12.1)」
「③-1. 子どものことばかり→夫婦というより父と母・子どものことを考えてしまう・子どもの話しかしない・子どものことが気になる(11.6)」であった。
項目4「夫と私は」と同様で夫婦間の良好な関係を述べる人が多い一方で、家庭が子ども中心に動くことによって、夫婦間のコミュニケーションがとりにくい

状況が生み出されたものといえよう。

「家族・夫婦関係」の領域では夫婦間の良好な関係が基本にあり、その上で、家族、とりわけ子どもが大きな位置を占めうるとの知見を得た。

3)領域Ⅲ(母親自身)

項目1「子どもの頃私は」

「①-1. 性質・性格→引っ込み思案・内気・泣き虫・活動的でない・おとなしい・気が弱く・自分の意見がいえない・人みしり・恥ずかしがり・臆病・静かな子・人前にでるのが苦手・甘えん坊(28.6)」
「①-3. 性質・性格→明るい元気な子・おてんば・わんぱく・男まさり・活発・目立ちたがりや・天真爛漫・手のかかる子(16.3)」
「②-1. 遊んで→一日中外遊び・友だちと外遊び・泥だらけで遊んで・男の子とよく遊んだ(14.3)」であった。多くが子どもの頃の性格・性質を指摘したものであった。

項目3「将来、私は」

「③-1. 仕事を含め、自分のやりたいこと→仕事を再スタート・好きな仕事・留学・仕事をして独立・ボランティア・自分を生かし社会と関わっていたい・夢の実現・子育ての経験を生かして子どもの仕事を(28.1)」
「②夫と→positive→夫と仲よく・主人と楽しくおだやかな生活を・夫と仲よく旅行にいける夫婦に主人、子どもたちの家族に囲まれて・主人といっしょに笑顔でいたい子どもに頼らず夫婦で老後を(16.1)」
「③-2. 仕事を含め、自分のやりたいこと→自立した老人に・一人の人間として成長・今より幸せで輝いていた・常に自立していたい・自分でしかできないことを自分で実現・1人でも生きていける人に・妻、母以外の自分というものがある人に・夫、子どもに頼らず自由に・幸せな祖母に・平凡な母親に(10.7)」
「⑥negative→考えられない・子どもが巣立ったあと何をしているか・どうなるか分からない・不安・ひとりぼっちになったらどうしようどうなるのかな・どうしているだろう・目標がない(9.8)」であった。大別すれば「仕事等」「夫との将来設計」「自立」「将来への漠然として不安、見通しのなさ」にまとめられるが、母親の多くが(28.1)仕事を含め、自分のやりたいことを望んでいることに注目したい。

項目9「私が感情的になるのは」

「④子どもが→negativeな感情→注意をしてもくりかえす・わるいことをする・ぐずぐずして反応しないとき・思い通りに行動しない・いうことをきかない・ききわけがない・手におえないとき・口ごたえ・ウソ・ものを粗末にしている(15.0)」
「①不調・疲れ・ストレス(14.1)」
「⑥-1. a. 自分自身→自分の欲求が満たされないとき・分かってくれないとき・思い通りにならない(10.3)」
「⑦その他 E(9.6)」である。「子ども」「母親自身」の二つが感情的になる原因の半数近くを占める。

項目10「私はひとりである」と

「①-2. 幸せ・ほっと等→positive な気持ち→リラックス・落ちつく・気が楽・穏やか・素直・ゆっくり・ほっとできる・ボーっとできる・のんびり（ホッとする、リラックス）（34.4）」が飛び抜けて多い。ここで挙げられたのはひとりであることの気楽さで、夫や子どもが大事な存在であるにしても時には母親が自分の時間をもて、ひとりでリラックスするときが必要であることを示している。

項目16「私は女として」

「①-1. ～でありたい→positive→魅力的でありたい・輝いていたい・幸せで・いきいきと・みがきをかけて・かわいく・明るく・女を忘れないように・女としても個としても魅力ある人に（21.4）」だけが突出していた。女性としてのあり方に積極的な意味を見いだした回答が多い。

項目19「思いどおりにいかないと」

「③-1. negative, 気持ち→aggressive おこってしまう・むしゃくしゃする・イライラしカーッと怒鳴る・頭にくる・切れて感情のコントロールがきかない・子どもに当たる、たたく・夫に当たる・短気・イライラ（行動も含む）（32.8）」「③-2. negative, 気持ち→depressive 暗い気分・落ちこむ・不満がいっぱい・ストレス・疲れる・困る・あせる・自分に当たる・落ちこんで泣きたい・自分が情けなくなみだ・感情的になり逃げだしたくなる・全てを放りだしたくなる（19.4）」「②-1. a イライラするが→仕方ない・何とかなるさ（15.0）」「①-2. 何とか対処→書いて考えなおす・思い通りにいかない要因を分析・とりあえずどうするか考え・納得する答えを・思い通りになるよう計算・少し頭を冷やすことを心がける・立ち止まって考えなおす・反省する（8.0）」であった。当然のことであるが、多くが negative な感情に支配され、それが夫や子どもに向けられる場合と、自分に向けられる場合とがあり、冷静に対処する母親は少ない。

項目25「困り果てたとき私は」

「③夫、友人、母、両親、父、家庭→いろんな人にあるいは～に→相談・頼る・話をきいてもらう（42.6）」「①主人、夫→頼りに・支えに・相談し（19.2）」であるが、6割以上がだれかに相談している。相談相手がいない母親は当然のことながら多くの問題を抱え込むことになるであろう。

項目27「死ぬときは」

「⑤叙述的 1. -自分だけが→きれいに・苦しまず楽しい気持ちで・苦しまず穏やかに・安らかに・楽に・眠るように・自然に・あっさりと・身辺きれいに・周りに迷惑をかけずに（32.1）」「①-1. 家族に→そばにいてほしい・みとられて静かに・みとられ・見守られて・愛されて（12.3）」「⑧その他 E（8.0）」であった。死に方の理想を述べる母親が最も多く、そして、家族

に見守られることを望んでいる母親も多い。

項目28「暴力」

「①絶対にいけない・許せない→反対・よくない・なくなるとよい・最低（44.2）」「②-1. 悲しい等、感情→嫌い・悲しい・ふるうことも、ふるわれることも嫌・怖い・暴力をふるう男の人は嫌・言葉の暴力が嫌い（主観）（20.1）」であり、いずれも暴力に対しての嫌悪感に基づく回答が多い。

母親自身に関する多様な項目に対して negative な状態に対する回答をみると、冷静な対応よりも感情的な対応が多いといえる。母親がひとりでいられる時間を確保することは家族がいかにかけがえのないものであるにしても、母親自身のこと、あるいは子どもとの関係、夫との関係の中で生じるさまざまなストレスを緩和し、また、冷静、客観的にそうした関係を見直す良い機会になると思われる、重要な知見だと考える。

4) 領域Ⅳ(母親自身の親子関係)

項目8「母と私は」

「①-1. かけがえのない・大切な・分り合える・positive→分り合える親子・大切な人・頼りにし合っている・何でも相談し合える・大変よい関係・仲よし（27.7）」「⑤叙述 2. 似ている（似ていない）（10.3）」「⑤叙述 1. 友でありライバル・同性の身近な友人・よい距離が保たれている（8.3）」「①-2. かけがえのない・大切な・分り合える・positive→そばにいて安心し合える・心の支え・深い愛情で結ばれている・強く結びついている・絆がつよい・大好き（8.0）」であった。母親としては同じ母親である自分の母に同一化しやすい傾向があるように思われる。

項目24「父と私は」

「③よい関係→いい親子・互いに信頼・理解し合っている・頼りにしている・よき相談相手・よき話し相手・心が通じ合っている・深い所でつながり合っている・一番思ったことがいえる・最高にいい間柄（17.4）」「②仲がよい→よく会話・F のような心の広い暖かい人になりたい（13.4）」であった。父親との関係は、母親との関係に比べれば希薄感是否めない。

自分自身の親子関係のありようは、自分が親になった場合、有形、無形の影響を与えるものとなると考えられ、こうした関係の把握は育児相談や心理臨床に、有効な情報を提供してくれると考える。

5) 領域Ⅴ(社会(友人・知人))

項目7「友人」

「②-2. 相談し合う・頼り→大切・かけがえのない・頼りになる・私の最大の味方・宝物・財産・たくさんいる（33.0）」「③会う機会が→子どもがいて会う機会がない・少なくなつて・淋しい・悲しい・疎遠に（15.4）」「②-1. 相談し合う・頼り→アドバイスをしてくれる・相談し合う・話し相手・主人にできない相談ができる・利害関係抜きで・悩みを素直に・子育て

てで助けられる(14.7)」であった。友人は自分の母親と同じくらいに大切に、そして、よき相談相手でもある。

項目13「仕事」

「⑤将来仕事をしたい・自立したい・資格をとって開業・主人の給料に頼らず(22.1)」「②-2. 仕事、好き・positive→楽しいー・一生を通して・楽しくできる・恵まれている・楽しくお金をもらう・生活に張りがでて・やりがいがあり楽しい(10.3)」「⑥経済的な理由から必要(8.5)」であった。将来の自立としての仕事と、現在の家庭との両立を図る中での仕事としての位置づけが多いと言える。

以上、32項目について頻度の多い反応をみてきたが、多くの研究知見が示されたと共に、本SCTが心理臨床検査として活用され、心理臨床に貴重で、かつ、重要な資料となるであろう。

M・SCTの反応分類とその頻度の傾向に関して (その2) 表7-1, 表7-2参照

前節の反応コードの場合、両親の結果を直接比較する事ができない。そこで、コードをまとめた反応分類について全領域合計ではM・SCT, F・SCTの順にみていきたい。

情緒性(M・SCT21.2%, F・SCT16.2%, 以下の()内同様)、関係性(26.1%, 20.2%), 叙述・考え方(34.8%, 53.0%), 困惑・当惑(2.0%, 2.5%), その他(12.0%, 1.9%), 回答拒否(2.8%, 4.0%), 回答失敗(1.1%, 2.0%)であった。明らかにF・SCTは叙述・考え方が半数を超えていること、逆にM・SCTの方が5から6ポイントほど情緒性や関係性が高く、とりわけ、その他ではM・SCTが10ポイント高い。ここに父親(男性)と母親(女性)、特に男性女性の違いが如実に現れている。男性はSCTに対しての回答が客観的な記述が多いこと、女性はその他というコード化しにくい複雑な反応や情緒性、関係性が多い。これはおそらくは主観的な回答が多いことを示していると考えられる。家族や家庭、あるいは子育てという現場の第一線に立つ母親(女性)が複雑な思いで日々を過ごし、様々な情念の中にあることを示しているものと思われる。

領域別に見てみたい。

1) 領域Ⅰ(育児を含む母子関係)

情緒性(19.5%, 13.5%), 関係性(30.5%, 27.4%), 叙述・考え方(31.1%, 49.6%), 困惑・当惑(3.2%, 3.3%), その他(12.4%, 0.9%), 回答拒否(2.4%, 3.6%), 回答失敗(1.0%, 1.8%)であった。傾向としてはほぼ、全領域の場合と似通っている。この領域がもっとも項目数が多いので全体の結果と類似するのは当然かもしれない。

2) 領域Ⅱ(家族・夫婦関係)

情緒性(27.9%, 26.3%), 関係性(22.7%, 19.1%),

叙述・考え方(32.2%, 44.7%), 困惑・当惑(1.2%, 1.7%), その他(11.3%, 1.4%), 回答拒否(3.1%, 3.7%), 回答失敗(1.5%, 3.2%)であった。この領域もおおむね全体の傾向と共通部分が多い。この領域も項目数が多く、領域Ⅰと合わせると質問項目数の3分の2近くを占める。したがって、全体の傾向を支配しているのはこの2領域といえよう。

3) 領域Ⅲ(母親自身)

情緒性(24.0%, 17.1%), 関係性(15.7%, 6.5%), 叙述・考え方(43.0%, 63.4%), 困惑・当惑(1.7%, 3.1%), その他(11.3%, 3.6%), 回答拒否(3.3%, 4.6%), 回答失敗(1.0%, 1.7%)であった。下記に述べる、領域Ⅴに類似した傾向があつて、この2領域では叙述・考え方が男女ともにその比率が高くなっているところに特徴がある。自分自身の評価に関わることは客観的な傾向が強いといえよう。

4) 領域Ⅳ(母親自身の親子関係)

情緒性(3.6%, 2.9%), 関係性(65.2%, 56.3%), 叙述・考え方(14.2%, 29.5%), 困惑・当惑(0.6%, 0.9%), その他(12.1%, 1.8%), 回答拒否(3.5%, 7.0%), 回答失敗(1.0%, 1.7%)であった。この領域Ⅳがもっとも独特な反応傾向を示している。関係性が男女ともに多く、女性では60%強、男性でも50%強であった。それに対して情緒性がともにかなり低く、また、叙述・考え方も他の領域に比べてかなり低い。それぞれの親子関係に関してはおそらく、親子という関係の中でとらえられているものと思われる。それだけ子から見た親子関係のもつ特異性が領域Ⅰの自分が親としてみた親子関係との違いを浮き彫りにしてくれるように思う。

5) 領域Ⅴ(社会(友人・知人))

情緒性(13.6%, 6.9%), 関係性(19.2%, 7.3%), 叙述・考え方(50.2%, 79.4%), 困惑・当惑(0.0%, 0.4%), その他(14.7%, 2.2%), 回答拒否(1.6%, 2.7%), 回答失敗(0.7%, 1.1%)であった。上に述べたように、この領域は叙述・考え方がもっとも大きい割合を占めており、男性では8割にも達している。「社会」のとらえ方が客観性を伴うものであることは明らかである。

2. M・SCTの領域間の相関関係

表3-1, 3-2に各領域間並びに合計点との相関係数を求めた結果を示した。合計点と各領域間では.818から.383で1%水準で有意であった。F・SCTとはほぼ同様の結果であったが、M・SCTは全体的に相関値が低い傾向が認められた。それだけ妻(母親)の方が回答の一貫性が若干、乏しいと推測される。領域相互では.437から.112とそれほど項目間の関係性は強くない。中では、領域Ⅰ(育児を含む母子関係)と領域Ⅲ(母親自身)が.437でもっとも大きな数値を示した。これ

はともに母親自身に深く関わるためと思われる。領域Ⅳ（母親自身の親子関係）と領域Ⅴ（社会・知人・友人）の間が.112と最も低く、これは構成する項目がそれぞれ2項目と少ないことの影響である。F・SCTの項目間が.683から低くても.314であることから、両者を比べると歴然としてM・SCTの方が低い。女性の場合、文章完成法によって思いや感情等が複雑に喚起されるもののようである。

3. 選択式質問項目とM・SCT項目とのクロス集計からの関係 表4-1～表4-4参照

1) 子どもとの関係、育児 表4-1

①しつけ(Ⅰ)

「夫婦は一体となって子どもと接する」場合、しつけを肯定的にとらえているが52.7%、「夫婦はそれぞれの立場で子どもと接する」場合には両義的が51.1%と多くなる。

②困り果てたとき私は(Ⅲ)

「夫婦は一体となって子どもと接する」場合、困り果てたときを肯定的にとらえているが76.4%、「夫婦はそれぞれの立場で子どもと接する」場合には肯定的が57.8%と少なくなり両義的が34.1%に増える。困り果てたときの夫婦の子どもへの向き合い方が夫婦間の信頼感を高めていると思われる。

この2つの質問項目は「夫婦がそれぞれの立場」であるよりも「一体となって接する」場合に「しつけ」、「困り果てたとき」などの課題が生じたときに肯定的にとともに対処していこうとする認識が生じたと考えられる。

2) 両親との関わり 表4-2

この両親との関わりではSCT7項目が統計的に意味のある結果が得られたが、おおむね「両親はともによく遊んで（関わって）くれた」場合に肯定的な記述が多く、ついで「母親はよく遊んで（関わって）くれた」であり、「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」場合には肯定的回答が減少する傾向が認められた。

①子どもの頃私は(Ⅲ)

「両親はともによく遊んで（関わって）くれた」場合に肯定的な記述が56.6%、ついで「母親はよく遊んで（関わって）くれた」43.1%であり、「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」場合には38.9%まで減少し、逆に否定的が20.4%に達していることは注目される。

②将来、私は(Ⅲ)

将来に関しては肯定的が7割を超えて「両親はともによく遊んで（関わって）くれた」場合85.4%、「母親はよく遊んで（関わって）くれた」74.3%であった。「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」場合は70.4%にとどまった。逆順で両義性が増加

する。

③母と私は(Ⅳ)

「両親はともによく遊んで（関わって）くれた」場合71.2%に肯定的な記述、ついで「母親はよく遊んで（関わって）くれた」57.8%であり、「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」場合38.9%まで落ち込んでいる。逆に否定的が25.9%と増加し、両義性も35.2%に達した。過去の両親との関わりの方が現在の母と自分の関係の評価に大きな影響を与えているものと言える。

④子どもといると私は(Ⅰ)

「両親はともによく遊んで（関わって）くれた」場合51.8%に肯定的な記述、ついで「母親はよく遊んで（関わって）くれた」44.0%であり、「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」場合は33.3%に減少し、かつ、否定的が29.6%を占めた。自分の親のありようが自分が親になった場合の、子どもへの関わり方にある程度の影響を及ぼしているものと思われる。

⑤子どもにとって私は(Ⅰ)

「両親はともによく遊んで（関わって）くれた」場合67.7%が肯定的、ついで「母親はよく遊んで（関わって）くれた」59.6%であり、「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」場合48.1%で否定的が22.2%であり、おおむね、上記の「子どもといると私は」と類似した結果であった。

⑥家にいると(Ⅱ)

「両親はともによく遊んで（関わって）くれた」場合に肯定的な記述が54.0%、ついで「母親はよく遊んで（関わって）くれた」33.0%であり、ほぼ同じで「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」31.5%であった。この後者2つは両義性がともに50%を超えていた。両親ともにという家族に一体感のある家庭と、それほどでもない家庭の違いが現れたといえよう。

⑦父と私は(Ⅳ)

「両親はともによく遊んで（関わって）くれた」場合は60.2%が肯定的な記述、ついで「母親はよく遊んで（関わって）くれた」が24.8%と減少し、さらに「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」場合では16.7%にすぎなかった。また、否定的では「母親はよく遊んで（関わって）くれた」が27.5%、さらに「両親ともにあまり遊んで（関わって）くれなかった」場合では35.2%に達した。この両者は両義性でもおよそ48%を占めていた。これを上に述べた③の「母と私は」と比べてみると一目瞭然で、父親の関わりの方が父親との関係の悪さに影響していることがわかる。

両親との関わりを尋ねた項目だけに子どもとの関係や自分の両親に関して深い関係が現れたと言える。言い換えると、母親であるということは、自分の

両親との関わりのあるように引き離して考えることはできないものと思われる。

3) 両親のあり方 表4-3

① 夫と私は(Ⅱ)

「両親ともに良いお手本」74.0%が肯定的で、「両親よりも自分たちなりに」54.0%で、20ポイントの相違が認められた。夫と私の関係に自分の両親をモデルとしたいか否かがある程度影響を与えていると言うことであり、言い換えると、良いモデルを持った妻(母)はそうように夫との関係を構築していこうとしているのかもしれない。

② 母と私は(Ⅳ)

「両親ともに良いお手本」では肯定的68.5%、「両親よりも自分たちなりに」53.0%であったが、この違いがそのまま、否定的に現れていて前者が4.4%であるのに対して後者は19.2%に達する。良いモデルを持った母親は自分の母親を肯定的にとらえるが、両親をモデル化するよりも自分たちのあり方を求める人たちはモデルが不適切であるためにそうした選択肢を選んでいく可能性があると思われる。

③ 父と私は(Ⅳ)

「両親ともに良いお手本」では57.5%が肯定的、「両親よりも自分たちなりに」が36.4%であり、否定的が21.2%、両義性が42.4%に至った。これを証拠立てるには父親の存在が父親との関わりや深さに関わっていると言えるが、今回の調査では、父親を選択する回答が少なく分析から外さざるを得なかったため比較検討を行うことができなかった。

前節の「両親との関わり」や「両親をモデルとする」ことは自分の親との関係のあり方によるものであり、そのことが、自分の子どもとの関係や、夫婦関係などへの認識の相違をもたらしていることが示されている。

4) 妻、母親として 表4-4

① 子育ては(Ⅰ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」では肯定的48.3%、「母親として苦悩することが多い」52.6%であるが、ほぼ同程度のそれぞれ両義性も47.7%、44.4%と高い。これに比して、「妻・母親として苦悩することはない」では73.6%が肯定的で子育てに悩むことがないから苦悩することがないものと推測される。

② 夫と私は(Ⅱ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」52.9%、「母親として苦悩することが多い」65.9%、「妻・母親として苦悩することはない」78.3%と苦悩の程度が減じるに従って、反比例して肯定的回答が増える。夫婦関係の良善さが肯定的反応を導くといえよう。

③ 子どもが生まれてから(Ⅰ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」では両義性の47.1%が多く、肯定的だったのは42.5%と下回った。

「母親として苦悩することが多い」では51.1%が肯定的で、「妻・母親として苦悩することはない」では65.1%で上回った。

④ 子どもといると私は(Ⅰ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」では上記同様の傾向で両義性が44.3%で肯定的41.4%を上回った。子どもといることや子どもが生まれてからの喜びもあり、苦勞することも多いことを表しているようである。「母親として苦悩することが多い」では肯定的38.5%、両義的36.3%であるが、否定的も25.2%あって、母親としての苦悩が子どもといることにあることを指し示しているかのようなものである。「妻・母親として苦悩することはない」では57.5%と6割に達しないもののやはり、肯定的である母親が多い。

⑤ 夫と子どもは(Ⅰ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」では肯定的67.8%、「母親として苦悩することが多い」でも78.5%、「妻・母親として苦悩することはない」では83.0%であった。自分のことではないせいか、いずれも肯定的が多いがそれでも「妻・母親ともに苦悩することが多い」母親は他に比して低い比率となっている。

⑥ 私は女として(Ⅲ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」では肯定的39.7%であるが、しかし、否定的も23.0%いて、妻、母親だけでなく、女性としての自分もまた、否定的な認識を持つものの多いことが注目される。「母親として苦悩することが多い」44.4%が肯定的、「妻・母親として苦悩することはない」では62.3%に達する。

⑦ 子どもにとって私は(Ⅰ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」51.7%が肯定的であるが、15.5%が否定的回答を寄せた。「母親として苦悩することが多い」64.4%が肯定的、「妻・母親として苦悩することはない」71.7%で7割を超えた。

⑧ 子どもは私を(Ⅰ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」49.4%、両義的40.2%で相半ばする思いもまた、強い。これは「母親として苦悩することが多い」60.7%肯定的、35.6%両義的と共通するものがある。「妻・母親として苦悩することはない」70.8%とこれも7割が肯定的である。

⑨ 子どもがいうことをきかないと(Ⅰ)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」71.8%が否定的で、この項目らしく14.9%が肯定的であるのみで、「母親として苦悩することが多い」も同様に73.3%否定的、14.8%肯定的となった。これに比べて、「妻・母親として苦悩することはない」では55.7%が否定的にとどまり、肯定的は22.6%見られた。子どもがいうことをきかないことにともなう悩みは母親たちが共有する課題であるが、それでも、「妻・母親として苦悩することはない」は否定的回答が相対的に少なくなっている。

⑩子どもの気持ち(I)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」51.1%が肯定的、両義的 47.1%、「母親として苦悩することが多い」も同様に肯定的 56.3%、両義的 42.2%、「妻・母親として苦悩することはない」では 67.0%が肯定的となっていた。

⑪夫とふたりでいると(II)

「妻・母親ともに苦悩することが多い」42.5%が肯定的で、「母親として苦悩することが多い」58.5%、「妻・母親として苦悩することはない」60.4%であった。

基本的に共通し、とりわけ強く現れていることは子どもとの関連において「妻・母親ともに苦悩することが多い」「母親として苦悩することが多い」母親たちは悩みが多いということである。また、両義的回答も肯定的と相拮抗することもあり、良くもあり、悪くもあるという思いもまた、強いことを伺わせる結果となっている。この「妻・母親として苦悩することはない」母親たちの楽観性や、「妻・母親ともに苦悩することが多い」「母親として苦悩することが多い」母親たちの悲観性が具体的に母親のおかれている状況からくるものかについては本研究からはいえない。

4. 夫婦同一項目間比較(夫婦一致率)

表5-1にF・SCTとM・SCTの同一間項目同士をクロス集計して、そのクロス表の中から否定的と否定的、両義的と両義的、肯定的と肯定的、というように夫と妻の回答が一致したものの一致率(合計)を各項目について求めて、その一致率の高位順に並び替えたものを示した。最大値の組み合わせが「+」とは肯定的と肯定的の組み合わせがもっと大きいことを示す。

この表によると、もっとも一致率の高い項目から見ると、「私にとって家族は」(II) 77.4%、「私にとって子どもは」(I) 75.5%の2項目だけが7割を超える一致率を示した。これらはいずれも肯定的な見方をする点での一致率の高さを示している。50%以上の一致率を示したのは32項目中11項目で3分の一程度であった。「将来、私は」(III) 62.3%、「妻(夫)が病気になる」と(II) 58.5%、「子どもと私は」(I) 58.0%、「私の居場所は」(II) 57.6%、「妻(夫)と子どもは」(I) 57.2%、「もしも子どもが」(I) 57.2%、「妻(夫)と私は」(II) 55.6%、「暴力」(III) 54.3%、「友人」(V) 53.6%であった。一致率の低いのは低いほうから「子どもがいうことをきかない」と(I) 28.1%、「私が感情的になるのは」(III) 33.3%、「父と私は」(IV) 34.3%、「性生活」(II) 35.1%、「母と私は」(IV) 35.5%、「私はひとりであると」(III) 38.0%、「困り果てたとき私は」(III) 39.1%である。いずれも父親なり、母親なりの自分自

身の認識にかかわる質問項目が比較的多い。

表5-2には不一致率の高位順に並べたものを示した。この不一致率とは、片方が肯定的で、もう一方が否定的、あるいはその逆の場合の比率の合計値を指している。表5-1、5-2のように一致率と不一致率を並べてみると必ずしも強い相関関係はないが、若干、一致率の高いものは不一致率は低いという反比例な関係がみられる。

不一致率の高いのは「母と私は」(IV) 17.8%、「私は男(女)として」(III) 17.6%、「私はひとりであると」(III) 17.2%、「私が感情的になるのは」(III) 16.9%と自分自身に関わる領域の項目で占められていることがわかる。

夫婦間の一致の程度は内容の一致もあるが、その項目への態度の肯定度、否定度が類似した場合にも現れるので、夫婦の見解の一致とは限らない。自己の認識を問われているような項目においては肯定度、否定度の類似性と解釈することが望ましく、自己と他者との関係や自分が相手をどのように認識するかという項目においては類似度と考えると良いように思われる。

5. 夫婦間比較(夫群と妻群の差) 表6参照

1) 将来、私は

夫婦ともに8割近くが+1(以下、肯定的)な将来像をもっているが、夫側では-1(以下、否定的)が12.7%で妻の0.2%よりも多い。社会の不景気、雇用情勢等が影響しているのかもしれない。妻の0(以下、両義的)が20.8%で将来への不透明感があるのかもしれない(夫は9.6%)。

2) しつけ(I)

夫側が63.6%と肯定度が高いのに比して、妻側は46.9%にとどまった。否定度に相違はあまりなく(夫側7.1%、妻側8.7%、以下の()内はこの順番で記載)、両義的で(29.2%、44.4%)で妻側が高い。妻側がしつけの最前線にあることを伺わせる。また、一般的に育児相談、心理相談でも父親の言うことはきくがわたし(母親)の言うことはきかないということがあがる、このことを反映しているのだろう。

3) 子どもと私は(I)

夫婦ともに肯定度は約7割(70.8%、66.5%)であるが、夫側は肯定度が7割を超える一方で否定的も妻よりも高い(10.0%、1.6%)。夫側はおおむね子どもとの関係は良好であるが、そうでない場合も他方ではあつて、ここに育児不安持つ父親の存在をうかがわせる。今回、表の結果として挙げていないが「私にとって子どもは(I)」は夫婦ともによく似た結果であった(肯定的(87.1%、84.4%)、否定的(3.3%、0.4%))。これは子どもとの関係ではなく、子どもへの思いであるから生じたことのように両項目を比べると興味深い。

4) 母と私は(IV)

肯定的が(35.0%, 59.8%), 否定的では(21.9%, 12.1%), 両義的(43.1%, 28.1%)で、母親との関係が夫側はあまり良くないか、両義的である割合が多い。

5)子どもがいると私は

肯定的(68.3%, 45.8%), 否定的(9.2%, 16.5%), 両義的(22.5%, 37.7%)であった。これは子どもと一緒にいることがもたらす、ある種の母親の育児に対する不安を現しているようである。

6)妻(夫)と子どもは(I)

これは妻は夫との、夫は妻との子どもの関係を他者評価したもので肯定的(67.9%, 75.2%)と妻の方が夫と子どもの関係を肯定的に見ている。他方、夫は妻と子どもの関係を否定的に見る割合が(10.0%, 5.4%)やや高く、両義的(22.1%, 19.4%)でも若干高い。これは妻からの子育てへの訴えや悩みをきくことの反映かもしれない。

7)私は男(女)として(Ⅲ)

夫側が男として肯定的(67.4%)に比して、妻側は肯定的割合が減り(47.3%), 代わりに両義的(15.2%, 35.9%)が増えているのがわかる。妻となり、母親となった自己の女性としてのあり方へのさまざまな思いが錯綜しているように思われる。

8)家にいると(Ⅱ)

夫側が肯定的(58.9%, 44.4%)と妻側より高く、妻側は両義的が(27.5%, 44.6%)と高いことから、おそらくは専業主婦を中心に閉塞感を感じている妻が多いのではないだろうか。夫にとっては家庭が安らぎの場になっている割合が多いのだろう。

9)子どもは私を(I)

この項目は子どもが自分をどのように見ているかの推測であるが、夫側に否定的(23.7%, 6.5%)の割合が多い。これは普段の関わりの薄さからくるものではないだろうか。

10)父と私は(Ⅳ)

母と私はの場合に類似していて夫側に否定的(27.9%, 17.4%)の割合が多く、肯定的割合は妻側が(31.9%, 43.3%)高い。

11)子どもがいうことをきかないと(I)

夫側は両義的が多く(56.7%, 15.6%), 否定的は妻側に多い(25.2%, 65.6%)。明らかにしつけや叱ることなどの場面が多く、またいうことをきいてくれない経験の多い母親と、時々、叱る程度でありながら比較的いうことをきいてくれる経験が多い父親との違い現れたものであろう。

12)子どもの気持ち(I)

否定的が夫側に多く(15.6%, 1.3%), 両義的は妻側が多い(22.8%, 40.6%)。子どもと接する機会が少ない父親に否定的が多くなるであろうし、子育てに直面している母親は子どもの気持ちをくみ取ることに迷いがあってもおかしくないといえる。

Ⅳ. 結 語

本研究で得られた結果から、主な研究知見を示すと次のようである。

1. M・SCT 項目の反応特徴

M・SCT 32 項目の反応について概説したが、母親たちは父親たちよりも多様で多岐にわたる反応をする傾向が強く、一つの反応に集中することはあまりない。父親には紋切り型の反応が多いとも言える。いずれにせよ、M・SCT を心理臨床検査として活用するための基礎資料が得られたものと考ええる。

母親と父親の反応は、領域や項目により多少の異同はあるが、母親の反応のほうが情緒的な関係性を示す反応が明らかに高い。また、コード化しにくい複雑で相反する表現が反応に示されている。

一方、叙述・考え方の反応は父親に多く見られる(添付表参照)。このことは、母親と父親の違いだけではなく、おそらく女性と男性、即ち性差を示していると考ええる。そして、この違いが夫婦関係や親子関係に影響を与えていると思われるが、それがよい方か、悪い方に働くかは、さらに分析を加えなくてはならない。

2. M・SCT の各領域間の相関関係

本法は 5 つの領域から構成されており、その相関係数を求めると領域Ⅰ(育児を含む母子関係)と領域Ⅲ(母親自身・女性性)が.437 と最も高い相関値を示した。このことは、父親にも示されており、育児を含む子どもとの関係の有り様は、自分自身と男性・女性性と深く結びついていると考える。

3. 選択式質問項目と M・SCT 項目とのクロス集計から

ここでは、この内より注目される知見を示したい。

①「夫婦は一体となって子どもと接する」と困り果てたときに肯定的に対処でき、「夫婦それぞれの立場で接する」場合は肯定的な比率が低くなる。困り果てたときの夫婦の子どもとの向き合い方が、子どもとの、そして夫婦関係のありように関与している。

②母親自身の親子関係について、「両親はよく遊んで関わってくれた」「母親はよく遊び関わってくれた」という経験を持つ母親は、「子どもといくと私は」の反応が有意に肯定的であり、よく遊び関わってくれなかったとするものは、肯定的反応が減少し、且つ否定的反応が生じている。自分の親との関係が、子どもとの関わりに関与していることは明らかである。また、「父と私は」についてみると、「母と私は」の反応と異なり、父親との関わりの薄さとその関係の悪さとは関連を有しており、ここに父子関係の重要性が示されている。

③「妻・母親として」の反応との関係をみると次のようである。「妻・母親ともに苦悩することはない」と

子育てに肯定的であり、逆も真なりで、当然の知見と考える。夫婦関係の良好さと「苦悩することはない」との反応は関連をもっている。「私は女として」という女性性の項目について、「妻・母親として苦悩することが多い」では、肯定的 39.7%、そして否定的が 23.0%である。妻、母親であることと、女性としての自己認識は関連を持ち、しかも、否定的であるものが多いことに注目したい。ただし、「妻・母親としての苦悩がない」場合には、肯定的 62.3%、否定的 6.6%であり、このことも重要な知見である。

「子どもがいうことをきかない」場合、「妻・母親としての苦悩が多い」71.8%が否定的である。一方、「苦悩することはない」ものは、55.7%が否定的にとどまり、肯定的も 22.6%認められた。妻、母としての苦悩は、子どものネガティブな行動への対応と関連を有している。

4. 夫婦一致率

両者の一致率が最も高く、しかも肯定的であった項目は、「私にとって家族は」と「私にとって子どもは」の2項目であり、子どもを含め望ましい知見が示された。

一方、不一致率の高い項目は、「母と私は」「私は男(女)として」「私は一人でいると」「私が感情的になるには」である。いずれも自己認識に関わる項目であり、このことは、見方によれば当然のこととも思われるが、一方、共に生き暮らしていくことへの影響も考えなくてはならない。

5. 夫婦間比較

いくつかの項目について、夫婦間で肯定的、否定的かどうかの知見を示したい。

①「子どもと私は」への反応は、夫婦共に肯定度は約7割を示している。一方、否定的な反応は夫の方が高く(夫 10.0%、妻 1.6%)、ここに父親の育児不安が反映されている可能性も考えておかななくてはならない。

②「子どもといくと私は」への反応について、夫の方がやや肯定的であり、妻の方に否定的反応が高い。子どもと一緒に過ごす時間の多い母親の反応として当然のことともいえよう。

③「私は男(女)として」への反応は、夫は男として肯定的とする比率が 67.4%に対し、妻の肯定的比率は 47.3%と比較して低く、一方、両義的反応は妻 35.9%に対し、夫は 15.2%である。妻となり、母親となった自己の女性としての認識は複雑で、錯綜していることが読みとれる。

④「子どもは私を」への反応について、夫に否定的反応は多い(夫 23.7%、妻 6.5%)。子どもが自分をどう体験しているのか、関わりの薄い、或いは子どもとの関係のありようが父親を否定的な傾向に導くのか、注

目され今後の検討課題である。

⑤「子どもがいうことをきかない」への反応を見ると、夫は両義的反応が多く(夫 56.7%、妻 15.6%)であり、否定的反応は妻の方が高い(夫 25.2%、妻 65.6%)。我々の育児不安研究*から、その本態としての心性のひとつに{子どもへのネガティブな感情、攻撃性}を見出しており、この知見は母親の育児不安を反映していることが考えられる。

今後の研究に向けて

本研究の最終研究目的は、父親の基本的役割を明確にすることにある。ここまで、父親・男性研究を重ね、得られた知見を吟味すると、その基本的役割とは、＜父親・夫・男性＞—＜母親・妻・女性＞—＜子ども＞の3者関係の、関係性そのもののなかにあると考えられる。そして、この関係性の中で、特に鍵を握っているものは、前2者の関係にあると思われる。今後、これらの関係性そのものを明らかにすべく研究をすすめたい。

謝 辞

本研究をすすめるに当たりご協力いただいた各地域の小児科・保育園・幼稚園の先生方、子育てサークルの方々、そして、お父さん、お母さんたちに深く感謝の意を表したい。

文 献

1. 川井 尚ほか：父親・男性研究Ⅰ—父親用文章完成法(F・SCT)の作成、日本子ども家庭総合研究所紀要、第38集 203-215, 2002.
2. 川井 尚ほか：父親・男性研究Ⅱ—父親用文章完成法(F・SCT)の作成、日本子ども家庭総合研究所紀要、第39集 203-215, 2003.
3. 育児における父親の役割に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究」(平山宗宏主任研究者)平成元年、2年、3年度研究報告書
4. 育児における父親の役割と保健指導に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」(日暮眞主任研究者)平成4年、5年、6年度研究報告書
5. 川井 尚：育児における父親の役割、小児保健研究、1992;51(6):671-680
6. 川井 尚：父親面接。心と体の健診ガイド—幼児編—。日本小児科学会・日本小児保健協会・日本小児科医会編。日本小児医事出版社。57-60. 2000

※日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所 母親用育児不安評定尺度「子ども総研式・育児支援質問紙」(0~11ヶ月、1歳児用、2歳児用、3~6歳児用)

項目	主な反応	コード	%
4. むずかしい→怒のすぎ・憎妬びなっているか・脅したりして後悔		B1-	3.1
③叙述			
1. 親の責任・義務・親の根本		C+	16.1
2. 子どもが			
a 子どもが→社会の中で生きていく見本		C+	1.6
b 子どもが→生きていくために必要なルール		C+	3.1
c 子どもが→情緒的なことを身に付ける・将来のために必要であることを教える		C+	11.6
④夫と→協力して・夫婦で・話し合い			
⑤夫から→口うるさい・甘やかすすぎ		B3+	3.6
⑥negative		B1-	0.9
1. a 今までのしつけではよかったのか戸惑う		D	1.6
b 子どもの守りをしてあげている, etc		C-	0.7
2. イライラして叱ってばかり		B1-	0.7
⑦大変		A±	0.7
⑧むずかしい		C±	8.0
⑨大切・大事		C+	1.1
⑩母親自身 口うるさい・厳しい・甘い		B1-	2.0
⑪その他		E	5.1
		E+	9.8
		E±	3.1
		E-	1.3
無回答			1.6

項目	主な反応	コード	%
2. 子育ては			
①大変		A±	5.1
1. 大変→大変		A+	19.2
2. 大変→喜び・幸せ・うれしい・楽しい		A+	8.0
3. 大変→子どもの：笑顔・元気・勇気と笑顔をくれる・いとおしい			
②悩み・イライラ		A±	1.8
1. 悩み→よるこび・楽しい		A±	1.6
2. イライラ→よるこび・楽しい			
③むずかしい		A±	2.2
1. むずかしい→楽しい・かわいく		C±	6.7
2. むずかしい→むずかしい・やりがい・責任		C±	1.3
3. むずかしい→反省			
④楽しい		A+	8.5
1. 楽しい→幸せ・よるこび		A±	3.3
2. 楽しい→忍耐・試される・責任		A±	8.5
3. 楽しい→ハード・疲れる・むずかしい・大変		A±	6.3
4. 楽しい→むずかしい・辛い・ストレス・悩み			
⑤叙述		C+	18.8
→自分育て・共に育て・生きがい・やりがい・体力・忍耐・責任・主人と家族と一緒に～したい			
⑥negative		A-	1.6
1. 苦手		B2-	0.2
2. 母子二人での生活 疲れて		D	1.1
3. うまくいかない		A-	0.4
4. どう育つかわからない		E	1.1
⑦その他		E+	2.0
		E±	0.4
		E-	0.7
無回答			0.7

表1 反応分類評定表

項目	主な反応	コード	%
3. しつけ			
①大切 重要		C±	9.6
→むずかしい・etc			
②むずかしい		C±	4.9
1. むずかしい→できるだけ補完するように・厳しすぎず・甘えすぎず		C±	4.5
2. むずかしい→親の姿・親や家庭のあり方・社会のルール		D	5.4
3. むずかしい→どこをどうしつけようか・正しいしつけ			
が分らないタイミングがつかめない			

注：+肯定的、主面賛的、一若定的、符号無し：ニュートラル

表2 M・SCTの主な反応

I 育児を含む母子関係の領域

項目	主な反応	コード	%
14. 子どもといふ私	①積極的, positive	A+	18.3
は	1. 積極的 positive→幸せ・楽しい・うれしい・よく笑う・明るい気持ち・愛しい	A+	7.1
	2. 積極的 positive→安心・安心感・抱きしめる温もり幸せ・心安らか	A+	4.0
	②大変 忙しい→positive →よさこび・幸せ・いやされる・ほっとできる	A±	15.0
	③楽しく、心が安らぐ→negative →疲れて・悲しい・イライラ・うとうとしこども	A±	6.7
	④イライラ→positive →成長ぶりを・楽しく理解・遊んだら楽しく	C+	4.2
	⑤叙述	C+	1.8
	1. 子どもの成長を感じる・自分の再発見・自分の希望より子どもの気持ちを感じる	C+	1.3
	2. 自信をもつて取り組める・子どものペースに合わせて	C+	7.4
	3. 母親として全てをなすべきこととした	A-	4.7
	⑥negative	A-	2.0
	1. 短気になる・つらい言・口うるさい・怒って泣き・イライラして暴言・時・感情をおこる	B3-	0.9
	2. 心に余裕がない・イライラし余裕がない	B3-	0.4
	3. 余り話をしない・向い合って遊んでいるが不安・集中力欠乏・断捨・疲れる	C-	1.8
	4. 思っていることを中断させられ手をさすのが面倒	C	4.9
	5. せっかちな一語しをきいてあげられない	B3+	6.5
	⑦忙しい・一日がきつという間	E	4.0
	⑧子どもと遊ぶ・子どもになる	E±	3.6
	⑨その他	E-	1.1
			4.2

項目	主な反応	コード	%
12. 子どもが生まれてから	①母親自身の positive な変化 1. 母親自身の positive な変化 (特徴) →自分以外の人間をこんなかいと思ふのはじめて 2. 母親自身の positive な変化 (特徴) →素直で、周りの人にやさしく・人を思ふやる心育つ・人の気持ちを感ずるように・両親への感謝・親の気持ちかわかる 3. 母親自身の positive な変化 (考え) →ゆつたりとした母性・自分が大人になった・人間として成長した・自分のことにござわらなくなった 4. 母親自身の positive な変化 (考え) →価値観が変わつた・人生観が変わつた・自分をみつめるようになった・物の見方が変わった 5. 母親自身の positive な変化 (考え) →忍耐がうづつた・充実・こころのほし・精神的につよく・自信がでてきた・親としての責任を感じる ②子ども中心に →私だけの世界から子ども中心の世界へ子どもも最愛・全て子ども中心 ③子どもへの positive な感情 →子どもが大好き・こんなかわいいものか・愛おしさを知つた ④母親自身、positive な感情 →幸せな気分・家の中楽しく・楽しい習慣・楽しい・今までご不便・喜怒哀楽・笑うこと	A+ A+ C+ C+ C+ B2± A+ A+	0.4 4.5 8.5 11.4 6.0 12.5 1.6 10.7

項目	主な反応	コード	%
18. 子どもにとって私は	①守る・頼る・抱ける所・安心 1. 守る・頼る・抱ける所・安心→守る・安全基地・安心して頼りにされる・頼りになり安心してできる・心の拠り所 2. 守る・頼る・抱ける所・安心→ただ甘えたりわがままいえる・愛されて、ることで安心・安心できるところ ②子どもが何でもうれしい →大好きとされるのがうれしい・必要で好きで、てくれるのがうれしい・大切な人と思ってくれて好き ③positive な存在としての母親 1. positive な存在としての母親→最終的にM・すべて感じとる・必要とされる・大事なM・なかの泣かないM 2. positive な存在としての母親→守り信じてくれるM・一番の・大切な事・心のパートナー ④情緒的にpositive なM →好きな・やさしい・面白い・甘えられる・愛情を注いでくれるM ⑤～の母でありたい 1. ～の母でありたい→楽しいMで、よき相談相手に・やさしいMに・一番の理解者 2. ～の母でありたい→しっかりとした頼れるM・尊敬できるM・どんな時でも全てを受けとめてあげられるMで ⑥negative 1. 口うるさい・すぐおこる・居心地の悪いM 2. ただの世話係 3. 必ずなくてはならない存在ではない・必要でもないかも 4. いてなくてもなくてもいいよな・よく分からない 5. 母として自信がない・不安 ⑦母・ママ ⑧恐れや好き ⑨その他	C+ B2+ A+ C+ B3+ A+ C+ C+ A- C- C- D A- C A± E E+ E± E-	7.6 3.1 0.4 17.9 5.6 6.5 7.4 11.8 7.8 0.2 0.4 4.9 1.8 6.3 4.0 4.5 4.6 4.2 0.7 3.3

無回答

項目	主な反応	コード	%
22. 子どもの私を	①頼りに・信頼・甘えて・求めて 1. 頼りに・信頼・甘えて・求めて頼りにしている・慕っている・信頼して・頼って・甘えてくれる・求めて甘えてくれる 2. 頼りに・信頼・甘えて・求めて甘えたる相手・けがたない存在と ②必要として・頼りてくれて・幸せ・うれしい・かわいい ③子どもが私を一大好き・positive 1. 子どもが私を一大好き・positiveに一大好き・無条件で好んでくれる・大好きとー私も大好き・うれしい 2. 子どもが私を一大好き・positiveに頼りてくれてうれしい ④子どもが私をへのようにみえる 1. 子どもが私をへのようにみえる ーおこりんぼうと・鬼のようにと・こわい・一番こわい人 2. 子どもが私をへのようにみえている・絶対頼っている 3. 子どもが私をへのようにみている ー遊びたいと好き・優しいと大好き ⑤子どもが私を一隣者・positive 1. 子どもが私を一隣者・positive ー心配していたわってくれる・大恥してくれている・利まさせてくれる 大事に気をつけてくれる	B2+ B2+ B1+ B1+ B1+ B1+ B1- C B1± B1+	23.2 1.3 6.9 15.4 1.3 6.3 3.1 1.6 3.6

項目	主な反応	コード	%
32. 夫とふたりでいると	①positive-感情 1. positive-感情→楽しい、安心・信頼・リラックス、のんびり・寛く・心がまる、ホッとする・落ちつく・心が軽む・自分らしくいられて幸せ・静けが安らぐ・おどろきで安心 2. positive-感情→今でも恋人のような気持ち・話し掛ける・どこかでぶつ合っていた・普通の話が楽しい ②子どもと夫と →まっとうとする・よく子どもの話をし楽しみ幸せを感じる ③子どものことばかり 1. 子どものことばかり→夫婦というより父と母・子どものことを考えてしまう・子どもの話しがしれない・子どものことが気になる 2. 子どものことばかり→子どものことばかり話をしたいのに ④昔 以前にもどりたい 恋人時代を思い出す・彼が全だったあの頃 ⑤positive-negative 1. 楽しいこともあるが楽しくないことも・楽しくないだけではなかなかなれない 2. 楽しいこともあるが苦痛になることも・楽しいでも不安 ⑥negative 1. 八つ当たりされたい・つめたい気持ちにさせられる・気をつかう・細かるところがきらい・いつ文句を言えるかビクつく 八つ当たりされるだけの存在 2. コロコロして動かずイライラの種・互いに別々・ケンカが多い 3. 意見がぶつかる 4. 話をしたことがつづかない・不自然・嫌いなものと同じく 5. 会話なし・うつくりするところがない・いざいざがゆくり・嫌味で落ちつかない・あまり会話が合わない・話が滅んでる 6. 会話がグダグダでうるさい 7. 最悪・一番嫌い・楽しくない 8. どうしてもいえない ⑦別荘 →静か・静けがが静けがする・空気のようなもの・普通 ⑧その他	A+ A+ B+ B± B± A± A± B- B- B- B- B- A- A- D C E E+ E± E-	31.5 12.1 3.6 11.6 1.1 3.1 4.2 0.9 1.3 2.7 0.4 0.9 6.7 0.2 1.1 0.7 1.8 3.8 3.6 2.7 1.1 4.9
無回答			

項目	主な反応	コード	%
30. 性生活	①安心、落ちつく、positive、情熱的、幸せ 1. 安心、落ちつく、positive、情熱的、幸せ あると心は落ちつく・安心を身える・満足・たのしんでいる・ なくとも喜びを感じる・心・許し合い・心が落ちつく 2. 安心、落ちつく、positive、情熱的、幸せ →いつも幸せな気持ちにさせてくれる・大切な人と出会う 幸せ・愛情を感じられる瞬間・思っている気持ちを確証 ②ない・淋しい 全くなくなるものでも淋しい・何もなし・忘れられている ようである ③寂び 1. 夫婦仲よくには必要・夫婦生活の基本・夫婦にとって大切な もの・大切 スキンシップ 2. 夫婦の会話の1つとして大切・お互いの言葉の上で成り立つ・ 夫婦のコミュニケーション・愛情を確かめる大切な時と 精神が安定という意味で大切・精神状態のよいもの・そうした いと考える心の通い合いが大切・心のつながりが信頼感のあらわれ 3. 精神がぶらわたり十分・大切に思うのが精神的な所でそれこそ 有難・夫婦生活を揺るがすものでない・分かれ合えれば十分だ ④なくない 1. なくてもいい・まぎれてもいい・もういらないかな・興味がない・ マンネリ化・興味がなくなるわけじゃない・ほんとうにない・夫は 悪くはない・余りない・ご無状・できてもいい・できない	A+ A+ B- C+ B3+ B2+ C± B2-	6.9 0.7 3.8 18.8 5.4 1.3 5.8 7.4

項目	主な反応	コード	%
④忙しい、家事、子どもとしたい		B2+	1.3
1. 忙しい、家事、子どもとしたい	→早く家事を終えて子どもと接する時間を、やらなくてはならぬことが多々、子どもとの時間をとつよう、時間について(前掲)	B2+	1.1
2. 忙しい、家事、子どもとしたい	→忙しくて、もう少し子どもと関わって、家事からもう少し子どもの手を	C±	0.9
3. 忙しい、家事、子どもとしたい	→子どもとのんびりしたい、(前掲)ついで(前掲)	A±	2.5
⑤やらなければならないこと多い、もっとしたい		C±	0.9
1. やらなければならないこと多い、もっとしたい	→もっとゆっくりしたい、のんびりする日と時間をもちたい	C	19.0
2. やらなければならないこと多い、もっとしたい	→おちついてゆっくりねむり、音楽をきいたりしたいと思う		
⑥忙しい			
→つい、仕事をして疲れて、休日時間よく動きまわる、一日中バタバタ・家事、時間に追われて、よく過ぎて、暇がなく、家事、忙しすぎて		A-	3.6
⑦negative		A-	4.5
1. やることが多すぎてストレスがたまる、子どもとずっと2人静かまってしまふ、気を使うことがある		A-	2.0
2. イライラ、息が詰まるような気がする、社会からとりのこされた、ボーンとできない			
3. おちつかない、あれもこれも中途半端			
⑧叙述		C	7.8
→何が面白いことかな、と、たいくづびより外に出たくなる、視野が狭くなる、外の空気にすることも必要		E	4.5
⑨その他		E±	1.8
		E±	4.9
		E-	0.9
			4.2

項目	主な反応	コード	%
①家庭、家、実家		C+	31.9
②居間、台所、寝室、部屋、ソファ		C	5.4
③家庭-positive	→心が穏やかでつけ、ほっとする、心地よい、心強い、一番安心でき、安らぐことができる、帰ってきて安心できる	A+	5.1
④子どもと-positive		B1+	4.5
⑤夫と子ども-positive			
1. 夫と子ども-positive	→夫と子どもと一緒、全部居場所、子どもと子どもと一緒、安らぐことができる	B1+	10.7
2. 夫と子ども-positive	→夫と子どもと一緒、全部居場所、子どもと子どもと一緒、安らぐことができる		
⑥夫-positive		B3+	0.2
⑦いろいろある		B2+	0.9
1. いろいろある	→夫と子どもと一緒、全部居場所、子どもと子どもと一緒、安らぐことができる	C+	3.6
2. いろいろある	→夫と子どもと一緒、全部居場所、子どもと子どもと一緒、安らぐことができる	C+	3.3
⑧私-positive		B2+	1.6
⑨叙述			
1. 自分の方でつく、社会にも家庭にも確実存在する各々の場所		C+	1.1
2. 家族、両親、妻、子ども、友人		C+	6.0
3. 夫と子どもと一緒、全部居場所、子どもと子どもと一緒、安らぐことができる		C+	0.2
⑩あるかどうかあやふや、ない		C	0.7
1. あるかどうかあやふや、ない	→あるかどうかあやふや、ない		
2. あるかどうかあやふや、ない	→あるかどうかあやふや、ない	D	3.8
⑪negative		C-	3.6
⑫ここ、ある		C	6.5
⑬その他		E±	2.2
		E±	1.6
		E±	1.8
		E-	0.4
			4.9

c. 弟・妹・おれがすむかにオレていた・親の愛を独占できなかった	A-	0.9
2 a. 何も実現しないで結婚し子どもを生んでしまった・冷めていた・自分勝手ながまま	C-	1.3
b. 小学4〜6年・死ごうかと思っていた・いじめで・けんかをしてみんなから嫌われて	A-	0.7
⑤へしたい・ →将来 花屋・バイオリン・バレリーナ・書道家 になれたかった	C+	2.0
⑥その他	E	4.7
	E+	2.7
	E±	2.0
	E-	2.4
おそろきなく親の声をわずらわさせて余り話ができなかった		
無回答		1.3

項目	主な反応	コード	%
3. 将来 私は	①子育てが一段落・子どもが成長して～したい～positive 1. 子育てが一段落・子どもの成長して～したい～positive →母や父にこころづい・夫や友人との時間を 2. 子育てが一段落・子どもが成長して～したい～positive →自分のライフワークを・母親として妻として女として自立・心豊かな生活を・やりたいことと時間を・精神的に自立し・充実した家庭を ②夫と～positive →夫と仲よく・主人と楽しくおどかさずな生活を・夫と仲よく旅行に行ける夫婦・主人・子どもたちの家族・迎まれて・主人といっしょに笑顔でいたい・子どもたちに頼らず家族を後援 ③仕事を含め 自分やりのこと 1. 仕事を含め 自分やりのこと →仕事を再スタート・好きな仕事・仕事・仕事をして独立・ボランティア・自分を生かし社会と関わりたい・夢の実現・子育ての経験を生かして子どもの仕事を 2. 仕事を含め 自分やりのこと →自立した老人に・一人の人間として成長・今までの幸せで満たされたい・常に自立していたい・自分でしかできないことを自分で実現・1人でも生きていける人・妻 毎日の自分といつものがある人・夫 子どもに頼らず自由・幸せな母親に・平和な母親 3. 仕事を含め 自分やりのこと →仕事を子どもだけでなくはなれたい人生を・このような生活ではなく自分の年齢を考えて・仕事をし家族以外の場所を ④子ども～positive →子どもといつも心通わせる母親 ⑤子ども～negative 1. 子ども～negative→子どもがどう成長していくか不安 2. 子ども～negative→どんな母親でいるか不安・どんな母親になっ ⑥negative →考えられない・子どもが巣立ったあと何をしてくれるか・どうなるかわからない・不安・ひとりまじりになったからどうしようどうなるのかな・どうしてゐるだろう・自勝がない ⑦その他 子ども・夫と離れて一人で暮らしたい 無回答	B1+	5.4
		C+	4.9
		B1+	16.1
		C+	28.1
		C+	10.7
		C+	1.8
		B1+	4.0
		B1±	0.4
		A±	1.3
		D	9.8
		E	4.5
		E+	8.0
		E±	0.4
		E-	0.2
			4.2

項目	主な反応	コード	%
10. 私にひとりである と	①幸せ・ほっとと等-positiveな気持ち 1. 幸せ・ほっとと等-positiveな気持ち →わくわく・幸せ・満足できてうれしい(幸せ) 2. 幸せ・ほっとと等-positiveな気持ち →リラックス・落ちつく・気が楽・穏やか・楽道・ゆっくり・ほっとできる・ポツとできる・のんびり(ホッとする、リラックス) 3. 幸せ・ほっとと等-positiveな気持ち →やさしく解放されて・安心・心の楽園まぐれる(やや親近感) ②ほっと・おちつく・淋しい・不安 →淋しくなる・長くなると不安に ③淋しい・むなしい →主人にいてほしい・みんなほしい ④子どもしたこと・家族のことと気づける →自分子どものことを考える・子どものことと家族のことが気づける ほっととするが子どものことが気づける・夫・子どものことを考える ⑤放逐 1. 全くない・1人の時間ほしい・1人になることが少なく・一人になるのが寂しがどつとくる・家事・子どもで1人の時間がない 2. いろいろ考える ⑥negative 1. 今までのことを考え深くおちこち・不安なことを考えてしまう 2. 何かでないと落ちつかないゆっくりできない・一人でいられない ⑦その他 なてい・なていを感じる	A+ A+ A+ A± A± B± C- C A- A- E E+ E± E-	67 34.4 33 7.8 6.5 5.6 7.6 47 22 47 42 31 49 13 29

無回答

項目	主な反応	コード	%
9. 私的感情になるのは	①内服・被服・ストレス →子どもが叱られるようなことをしていると感情的に仕つける・怒りの感情でカッととなる	A- A-	14.1 2.7
	②ストレス・被服・negative		
	③時計・連呼して・時計がなくていい・余裕がないとき・自分の時間がない	C-	4.9
	④子どもが「negativeな感情」 →注意をしてももらかず・悪いことをする・ぐずぐずして反応しないとき・思ひ通りに行動しない・いうことをきかない・ききわががない・手をおさないとき・口ごたえ・ウソ・ものを拒絶にしている	B3-	15.0
	⑤夫の行動・negative		
	1. 夫の行動・negative →夫が子どもをヒステリックにおこなうとき・夫が子どもへの愛情を示しているつもりでも伝わらないとき	B1-	0.4
	2. 夫の行動・negative →夫と意見が合っていないとき・夫と口論・夫が自分の意志を無意で果たさとき	B3±	5.6
	3. 夫の行動・negative →夫に対して不協があるとき・夫の反応がないとき（解解を含む）	B1±	3.1
	4. 夫の行動・negative →夫が自分のことを優先しているとき・夫が約束を守らない・夫が家庭内のルールを守らないとき（行動のみ）	B2±	1.1
	5. 夫の行動・negative →夫と時計が響つたとき		
⑥自分自身			
	1. a. 自分自身・自分の欲求が満たされないとき・分かってくれないとき・思ひ通りにない	B1- C±	0.2 10.3

b	自分自身→自己を否定されたとき・プライドを傷つけられたとき 気にしていることにふれられたとき・自分が認められないとき	C+	40
c	自分自身→自分の行動を批判されたとき・思ひやりのなさ、 態度をとられたとき・とがめだてをうける	C±	20
2.a	自分自身→精神的に不安定な時・自分で手ご減りなくなつたとき	A-	25
b	自分自身→子どもももつてから、親戚のコントロールができない・ 人として素直な面	C-	38
3.	自分自身→してきたことが無駄になったとき	A-	09
⑦その他		E	96
		E+	54
		E±	33
		E-	62
			49

無回答

項目	主な反応	コード	%
16. 私は女として	①～で肯定的・positive 1. ～で肯定的・positive かれいく明るく女を愛がないように女としても男としても魅力ある人 2. ～で肯定的・positive 一女として愛がないように ②妻として、母として-positive 一楽しく生きる・輝いていたい・楽しく身も心も美しく心掛ける ③子どもを生んで-positive →よかった・幸せ・感謝 ④子どもにとって 1. 子どもにとって→母親として生き・子どもにとって母の存在・今は子どものために(母) 2. 子どもにとって→子どもに嫌がらなければいけなくていいわい・娘のお手本に(女性) 3. 子どもにとって→子どもと友として母として(友人・対姉) ⑤夫-positive 1. 夫-positive →夫の助かっただけで幸せ・主人になつてもふりてほしい・夫と出会う子をもてよかった・夫と子供通う幸せ・共々愛さなさい・もっとよい妻になりたい 2. 夫-positive →夫が一番よく分っている・主に甘えてる ⑥女としてではなく 1. 女としてではなく→女として今お休みの中・妻と母で精一杯・女で遊ぶ母・女として不十分・女であるより母親・世間での母親ではない 2. 女としてではなく→女としてより母としての存在価値 3. 女としてではなく→女としての意識が足りない 4. 女としてではなく→女として自分を考えることばない ⑦叙述 1. 私は、私1人の人間・男女の区別は無識ない・自立したい 2. 女より人間性器の大きい人に ⑧negative 1. 魅力がない・能力に欠ける 2. どこかにいてしまった・失格・不安定・自信がない・女として終わって・子どもが生まれてから意識してない・女として嫌 3. 未熟→子どもで実行き不足・未熟 ⑨幸せ・女こう對てよかった ⑩その他	C+ C+ C+ A+ B2+ B2+ B2+ B1+ B1+ C± C C C C C C+ C- A- C- A+ E B+ E± E-	21.4 0.7 4.0 5.4 0.2 0.4 0.2 2.9 0.9 6.5 2.9 2.9 3.3 3.1 1.3 6.0 7.8 1.6 7.1 4.0 2.7 2.9 1.3 7.6

無回答

項目	主な反応	コード	%
25. 国の果びと き私は	①主人、夫・一婦に、おれに・相談し ②友人・一相談、助けを求める・解決策を・気持ちよくもらう ③夫、友人、母、両親、父、家庭・いづれに・あるいはへに →相談、頼る、話をきいてもらう ④自分で 1. 自分でよく考える考えつくす・最良の考えを冷静に・誰にも相談せず一人 で解決・問題をなおしてもう一度考える 2. 自分で何とかが解けてよくと努力・開きをおる・よくなると信じ 自分こいしきかせる・まづ行動する、うじうじ、悩まず、 とりあらず他のことをして・どこかぬき道をさがす ⑤食べる、ねる・休息 →よく食べている一解決の道がある・長い間、ぼろの自分が解決・ 考えるのをやめてはどつたり・朝びなてよい考え・ 体を休め、先がゆえてくる・全てを忘れて休息 ⑥negative 1. 行動が止まる・死にたくなる・どうやって死のうまいつも考える どうすればいいかわからない・泣く・無心・ひとりで嘆きながら、まう 2. にがたしたくなる・相談できる相手・まなない・どうするんだらう 3. ひとつのことにしか考えられなくなる・ひとりでなげない・ 他の事が一切手につかない ⑦その他	E2+ E2+ E2+ C± A± C± A- D C- E E+ E± E- E± E± E±	19.2 4.5 42.6 5.8 3.8 6.7 4.0 2.5 1.8 1.1 0.2 1.6 0.4 5.8

	項目	主な反応	コード	%
27. 死ぬときは	①家族へ 1. 家族こそそばにいてほしい・みとられて静かに・みとられ・見守られて・愛されて <大切な人に見守られて> 2. 家族こそそばをいって・家族は遠ざかすな ②共に 一生人もいつしよに、最後をみんなでいたい、共にそばにいてほしい 夫の前で・夫 子どもにそばについてほしい ③子どもに →きゅんとだきしまれたい・見守られてみとられたい・子どものそばで ④子どもが →子どもが泣くなくなくてから・大人びたのでから・後悔しないように生きて子どもが成長するまで死んでたくない・子どもが自分の家を持っても安定して生活できる・子どもが自立に出てって・子どもの今後を人にきくと話して自立してから・子どもにも迷惑かけずな ⑤叙情的-自分だけが 1. 叙情的-自分だけがきれるに・苦しみすぎない気持ちで・苦しみ過ぎずに・安らかに・寝て・眠るように・自然に・あっさりとして・勇まされたい・周りに迷惑をかけず 2. 叙情的-自分だけが安らかな睡眠よく・満足して・幸せだった・たくさん人の役にこの人として・心のこけなく・楽しかったことふりかえることができれば最高 3. 叙情的-自分だけがひとりで・一人静かに ⑥negative	C± C+ C± C± C+ C+ C+	12.3 3.6 4.0 2.0 8.0 32.1 13.2 3.1	

おかしな人と	C ±	1.8
5. 自分を守る群からなまじけないうるふるオオカミなら私も傷みかねてふるう		
⑥negative		
1. 叩みつけるのを暴力といふと落ち込む	A-	0.2
2. 暴力が性格・自分が、夫は母親に虐待されて育ったという	B2-	0.4
⑦その他	E	4.5
	E+	1.8
	E±	1.6
	E-	0.4
無回答		4.5

IV 母親自身の親子関係の傾向	項目	主な反応	コード	%
8. 母と私は				
	① かがえのない・大切な・分り合える・positive 1. かがえのない・大切な・分り合える・positive 分り合える親子・大切な・頼りに合っている・何でも相談し合える・大変よい関係・仲よし		B1+	27.7
	2. かがえのない・大切な・分り合える・positive →そばにいて安心し合える・心の変化・深・愛情で結ばれている・強く結ばれている・絆がよい・大好き		B1+	8.0
	② よくぐんかした-positive →よい関係・今よりも関係・仲よく・母が一番・仲よし・大切な		B1+	6.9
	③ 子育てへの →よき相談相手・理解者・アドバイス・注意されたり		B3+	6.3
	④ 子どもができてから-positive 1. 子どもができてから-positive →よくなり・かがえのない・理解し合える・会話が多い・距離が近くなった・前より仲よく・近・存在に・頼りにしている・何でも話せる・昔より何でも話せる ①前の状態が不明(劣)		B3±	5.1
	2. 子どもができてから-positive →自然な理解・感謝・母のことがよく分る ①前の関係がnegativeと思える時		B3±	2.5
	⑤ 叙述 1. 友でありライバル・同世代の身近き友人・よい理解が得られている		C+	8.3
	2. 似ている (似ていない)		C	10.3
	3. 親子		C	1.1
	⑥ negative 1. 性格的に合わない・良き関係ではなかった・仲悪し・相性が合わなかった・価値観が違・よく衝突		B1-	5.6
	2. 複雑な関係・意見が違・合わない		B2-	2.5
	3. 子ども以上に解れる・余り話さない・苦手・人の気持ちを考えてほしい		B1-	0.9
	4. 本音をいえる関係ではない・遠慮のある親子・分りあっていたか分りあっていたか分りあなかった		B2-	2.0
	5. 主役関係		B2-	0.2
	⑦ その他		E	3.1
			E+	2.7
			E±	2.9
			E-	0.9
				3.1

無回答

項目	主な反応	コード	%
24. 父と私は	①大好き positive な感情 → 大好き、尊敬、甘えなどの存在・愛物が仕わってくる・やさしい、空想のような関係・仲良く好き・かわいくわてくれる・ ②仲がよい → よく会話・F のような心の広い、暖かみ、ういづなりだい	A+	7.1
		B+	13.4

20

1. 早く死なばいい・人生苦だつた・きつとひとりできりだつたう	A-	11
2. 死について物・娘から遺書	A-	11
⑦おからなふ・考えなけふ・考えなぐない	D	31
⑧その他	E	80
一私の全てを子どもに伝え・子どもを天国で見守りたい	E+	20
	E±	09
	E-	07
		47

無回答

項目	主な反応	コード	%
19. 思ひどおりにやれないと	①何とが原因 1. 何とが原因—まあ人生ごこんなもの、まだまだ花があると考える。 次のことを考える、あきらめる 2. 何とが原因—書いて考えなす・思、通りこいゆな、要因を分析・とりあえずどうするか考え・納得する考えを・思、通りこなるよう計算、少し頭を冷やすことを心がける、立ち止まって考え直す・反省する ② 1. イライラするが a 仕方ない、あきらめも早い、何とかなるさ、これも人生・気分転換 b 考える、対処する、反省する 2. おちこちが a あきらめる、きりかえる b 考える、対処する、反省する ③negative、気持ち 1. negative、気持ち—aggressive 怒ってしまう、むしろくしゃする、イライラしカースと怒鳴る、頭こくる・目で悪魔のコントロールがきかない、子どもに当たる、たたく・夫に当たる、短気、イライラ（行動も含む） 2. negative、気持ち—depressive 暗い、気分、落ちこむ、不愉快、疲れる、困る・あせる、自分に当たる、落ちこんで泣きたい、自分が精がなぐ疲・感傷的になり退廃したくなる、全てを放りだしたくなる ④その他	C± C+ A± C± A- A- E E± E-	67 80 15.0 6.0 3.1 1.3 32.8 19.4 2.5 1.1 1.1 2.9

無回答

項目	主な反応	コード	%
28. 暴力	①絶対にやらない、許さない→反対、よくない、なぐなぐなといふ、最低 ②悲しい等、感情 1. 悲しい等、感情→嫌い、悲しい、ふるふることも、ふるふれることも嫌、怖、い、暴力をふるう男の人嫌、言葉の暴力が嫌、住居 2. 悲しい等、感情→最近子どもに暴力をふるうのが多く悲しい、深刻 ③夫・父からの一歩引を求めたことがある、暴力ふるえるが理解、嫌、一連貫するのは父 ④子どもへの 1. 子どもへの叱りでなくのは暴力とは違う・多くの体罰は仕方ない、愛のあるしつけとしてならよい、時々は必要 2. 子どもへの子どもを叩いてしまう、叩くことがある、手が出てしまう・言葉の暴力、ごめんね 3. 子どもへのムリカない、嫌い、よくない、反対 ⑤叙述 1. 押附て余りに多く心配、子どものいるところにおっつけてはならない 2. 若者が叩けるのが悪い・色々な事件、子どもを守っていくのが困難 3. 暴力がひどいからいっている・弱いのが子つもの 4. 身体と言葉の暴力がある、暴力があることを子どもにも教えて	C+	44.2
		A+	20.1
		A+	0.9
		B2-	1.8
		C±	5.6
		B1-	4.2
		C+	0.7
		C+	2.2
		C	0.7
		C	2.5
		C	2.0

例文	訳文	品名	品名
③よい関係 →よい親子・互いに信頼・理解合っている・頻りにしている、よき相 談相手・よき話し相手・心が通じ合っている・深・所でぶつかり合っ ている、一番思ったことがいえる、最前線いも信頼	良士	良士	良士
④前は余りよくない→今はいい →まだいい、親類に、最近知り合えた、昔は仲悪かった→今はいい	良士	良士	良士
2. 前は余りよくない→今はいい →昔話から仲よく、子どもを生み育てて初めて父のことが分った	良士	良士	良士
3. 前は余りよくない→今はいい →大人になったから親類になる、父嫌気になって初めて理解合えた	良士	良士	良士
4. 前は余りよくない→今はいい →この頃話ができる、普通に接し合えるようになった、子どもの頃は 怖、存在	良士	良士	良士
⑤亡くなった 1. 亡くなった→一緒にいる時期が短かすぎた 2. 亡くなった→いから分り合っていたと今思いう 3. 亡くなった→父がいなくなれば、生きて居なければ、尊敬している。 存在の大きさ、大切に願った 4. 亡くなった→やさしい父の姿を思ひます、もっと生きて、ほしい かった、父との思い出大切	良士	良士	良士
⑥negative 1. 仲がよくない、いい関係でない、仲がある 2. Fのようなど結構しなくなかった、嫌い、Fみたいな人好きでない、 最悪 3. 他人のようで理解きいていない、すぐ遠い関係、きこちない関係、 作めている 4. 考えたことない、わからない 5. 余の話をない ⑦似ている ⑧その他	良士	良士	良士
基本対訳考え方を建てる	良士	良士	良士
毎回答	良士	良士	良士

21

表 3-1 M・SCT の領域間の相関関係

領域	領域 I 養育者 自身・母親 合計点 (2項目)		領域 II 養育者 自身・父親 合計点 (2項目)		領域 III 養育者 自身・兄弟 合計点 (2項目)		領域 IV 養育者 自身・祖父母 合計点 (2項目)		領域 V 養育者 自身・友人・知 人 合計点 (2項目)		FSC 合計 点 (5領域 32項目)	
	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N
領域 I 養育者自身・母親 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
領域 II 養育者自身・父親 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
領域 III 養育者自身・兄弟 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
領域 IV 養育者自身・祖父母 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
領域 V 養育者自身・友人・知 人 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
FSC 合計点 (5領域 32 項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。
* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

表 3-2 F・SCT の領域間の相関関係

領域	領域 I 養育者 自身・母親 合計点 (2項目)		領域 II 養育者 自身・父親 合計点 (2項目)		領域 III 養育者 自身・兄弟 合計点 (2項目)		領域 IV 養育者 自身・祖父母 合計点 (2項目)		領域 V 養育者 自身・友人・知 人 合計点 (2項目)		FSC 合計 点 (5領域 32項目)	
	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N	有意水準 N
領域 I 養育者自身・母親 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
領域 II 養育者自身・父親 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
領域 III 養育者自身・兄弟 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
領域 IV 養育者自身・祖父母 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
領域 V 養育者自身・友人・知 人 合計点 (2項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448
FSC 合計点 (5領域 32 項目)	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

表 4-1 子どもとの関係、育児

M・SCT05 つづけ (I)	(上段: N, 下段: %)		育児満足点1点		育児満足点1点	
	否	是	否	是	否	是
夫婦は一体となって子どもと接する	20	84	20	84	116	52.7
夫婦はそれぞれの立場で子どもと接する	18	114	18	114	91	40.8
M・SCT05 困り果てたとき私は (III)	8.1	51.1	8.1	51.1	40.8	57.8
夫婦は一体となって子どもと接する	9	43	9	43	168	76.4
夫婦はそれぞれの立場で子どもと接する	18	76	18	76	129	57.8

表 4-2 両親との関わり

M・SCT01 子どもとの関わり (III)	(上段: N, 下段: %)		育児満足点1点		育児満足点1点	
	否	是	否	是	否	是
両親はともによく遊んで (関わって) くれた	18	80	18	80	128	56.6
母親はよく遊んで (関わって) くれた	9	53	9	53	47	43.1
父親はよく遊んで (関わって) くれた	8.3	48.6	8.3	48.6	43.1	57.8
両親ともにあまり遊んで (関わって) くれなかった	11	22	11	22	21	38.9
M・SCT03 将来、私は (III)	20.4	40.7	20.4	40.7	38.9	59.6
両親はともによく遊んで (関わって) くれた	0	33	0	33	193	85.4
母親はよく遊んで (関わって) くれた	1	27	1	27	81	74.3
父親はよく遊んで (関わって) くれた	0.9	24.8	0.9	24.8	74.3	38
両親ともにあまり遊んで (関わって) くれなかった	0	16	0	16	70.4	161
M・SCT08 母と私は (IV)	14	51	14	51	71.2	83
両親はともによく遊んで (関わって) くれた	6.2	22.6	6.2	22.6	57.8	35.2
母親はよく遊んで (関わって) くれた	11.9	30.3	11.9	30.3	21	38.9
父親はよく遊んで (関わって) くれた	25.9	35.2	25.9	35.2	194	85.8
M・SCT11 私にとつて子どもは (I)	0	14.2	0	14.2	94	86.2
両親はともによく遊んで (関わって) くれた	0	13.8	0	13.8	41	75.9
母親はよく遊んで (関わって) くれた	2	20.4	2	20.4	117	51.8
父親はよく遊んで (関わって) くれた	3.7	31.0	3.7	31.0	48	44.0
M・SCT14 子どもといふ私は (I)	39	70	39	70	153	67.7
両親はともによく遊んで (関わって) くれた	17.3	31.0	17.3	31.0	59.6	85.4
母親はよく遊んで (関わって) くれた	12.8	43.1	12.8	43.1	33.3	59.6
父親はよく遊んで (関わって) くれた	29.6	37.0	29.6	37.0	153	67.7
M・SCT18 子どもにとつて私は (I)	15	58	15	58	29	59.6
両親はともによく遊んで (関わって) くれた	6.6	25.7	6.6	25.7	59.6	85.4
母親はよく遊んで (関わって) くれた	13.8	26.6	13.8	26.6	59.6	85.4

M・SCT14 子どもといふ私は(Ⅰ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	25	77	72
母親として苦悩することが多い	14.4	44.3	41.4
母親として苦悩することが多い	34	49	52
母親として苦悩することが多い	25.2	36.3	38.5
妻・母親として苦悩することが多い	10	35	61
妻・母親として苦悩することが多い	9.4	33.0	57.5
M・SCT15 夫と子どもは(Ⅰ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	14	42	118
母親として苦悩することが多い	8.0	24.1	67.8
母親として苦悩することが多い	3	26	106
母親として苦悩することが多い	2.2	19.3	78.5
妻・母親として苦悩することが多い	3	15	88
妻・母親として苦悩することが多い	2.8	14.2	83.0
M・SCT16 私は女として(Ⅲ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	40	65	69
母親として苦悩することが多い	23.0	37.4	39.7
母親として苦悩することが多い	23	52	60
母親として苦悩することが多い	17.0	38.5	44.4
妻・母親として苦悩することが多い	7	33	66
妻・母親として苦悩することが多い	6.6	31.1	62.3
M・SCT18 子どもにとつて私は(Ⅰ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	27	57	90
母親として苦悩することが多い	15.5	32.8	51.7
母親として苦悩することが多い	17	31	87
母親として苦悩することが多い	12.6	23.0	64.4
妻・母親として苦悩することが多い	2	28	76
妻・母親として苦悩することが多い	1.9	26.4	71.7
M・SCT22 子どもは私を(Ⅰ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	18	70	86
母親として苦悩することが多い	10.3	40.2	49.4
母親として苦悩することが多い	5	48	82
母親として苦悩することが多い	3.7	35.6	60.7
妻・母親として苦悩することが多い	2	29	75
妻・母親として苦悩することが多い	1.9	27.4	70.8
M・SCT26 子どもがいうことをきかない(Ⅱ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	125	23	26
母親として苦悩することが多い	71.8	13.2	14.9
母親として苦悩することが多い	99	16	20
母親として苦悩することが多い	73.3	11.9	14.8
妻・母親として苦悩することが多い	59	23	24
妻・母親として苦悩することが多い	55.7	21.7	22.6
M・SCT29 子どもの気持ち(Ⅰ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	3	82	89
母親として苦悩することが多い	1.7	47.1	51.1
母親として苦悩することが多い	2	57	76
母親として苦悩することが多い	1.5	42.2	56.3
妻・母親として苦悩することが多い	1	34	71
妻・母親として苦悩することが多い	0.9	32.1	67.0
M・SCT32 夫とふたりで(Ⅱ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	36	64	74
母親として苦悩することが多い	20.7	36.8	42.5
母親として苦悩することが多い	17	39	79
母親として苦悩することが多い	12.6	28.9	58.5
妻・母親として苦悩することが多い	3	39	64
妻・母親として苦悩することが多い	2.8	36.8	60.4

両親ともにあまり遊んで(関わって) くれなかった	12	16	26
M・SCT20 家にいると(Ⅱ)	22.2	29.6	48.1
両親ともによく遊んで(関わって) くれた	22	82	122
母親としてよく遊んで(関わって) くれた	9.7	36.3	54.0
母親としてよく遊んで(関わって) くれた	14	59	36
母親としてよく遊んで(関わって) くれた	12.8	54.1	33.0
両親ともにあまり遊んで(関わって) くれなかった	7	30	17
M・SCT24 父と私は(Ⅳ)	13.0	55.6	31.5
両親ともによく遊んで(関わって) くれた	18	72	136
母親としてよく遊んで(関わって) くれた	8.0	31.9	60.2
母親としてよく遊んで(関わって) くれた	30	52	27
母親としてよく遊んで(関わって) くれた	27.5	47.7	24.8
両親ともにあまり遊んで(関わって) くれなかった	19	26	9
母親としてよく遊んで(関わって) くれた	35.2	48.1	16.7

表 4-3 両親のあり方 (上段：N, 下段：%)

M・SCT04 夫と私は(Ⅱ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
両親ともに良いお手本	18	29	134
両親ともに良いお手本	9.9	16.0	74.0
両親よりも自分たちなりに	30	61	107
M・SCT08 母と私は(Ⅳ)	15.2	30.8	54.0
両親ともに良いお手本	8	49	124
両親ともに良いお手本	4.4	27.1	68.5
両親よりも自分たちなりに	38	55	105
両親よりも自分たちなりに	19.2	27.8	53.0
M・SCT24 父と私は(Ⅳ)	14	63	104
両親ともに良いお手本	7.7	34.8	57.5
両親よりも自分たちなりに	42	84	72
両親よりも自分たちなりに	21.2	42.4	36.4

表 4-4 妻、母親として (上段：N, 下段：%)

M・SCT02 子育ては(Ⅰ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	7	83	84
母親として苦悩することが多い	4.0	47.7	48.3
母親として苦悩することが多い	4	60	71
妻・母親として苦悩することが多い	3.0	44.4	52.6
妻・母親として苦悩することが多い	0.9	25.5	73.6
M・SCT04 夫と私は(Ⅱ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	32	50	92
母親として苦悩することが多い	18.4	28.7	52.9
母親として苦悩することが多い	11	35	89
母親として苦悩することが多い	8.1	25.9	65.9
妻・母親として苦悩することが多い	5	18	83
妻・母親として苦悩することが多い	4.7	17.0	78.3
M・SCT12 子どもが生まれてから(Ⅰ)	否定的反応点-1点	同様の0点	肯定的反応点1点
妻・母親ともに苦悩することが多い	18	82	74
母親として苦悩することが多い	10.3	47.1	42.5
母親として苦悩することが多い	16	50	69
母親として苦悩することが多い	11.9	37.0	51.1
妻・母親として苦悩することが多い	3	34	69
妻・母親として苦悩することが多い	2.8	32.1	65.1

表5-1 一致率 高位順

項目名	一致率 (合計)	最大値	最大値の組 み合わせ	不一致率
SCT31 私にとつて家族は(Ⅱ)	77.4	76.1	+	5.8
SCT11 私にとつて子どもは(Ⅰ)	75.5	73.9	+	2.9
SCT03 将来 私には(Ⅲ)	62.3	60.7	+	10.5
SCT21 妻(夫)が病気になる(Ⅱ)	58.5	52.7	(+)	4.9
SCT06 子どもと私は(Ⅰ)	58.0	49.6	+	6.9
SCT17 私の居場所(Ⅱ)	57.6	52.2	+	11.6
SCT15 妻(夫)と子どもは(Ⅰ)b	57.2	51.8	+	10.7
SCT23 もしも子どもが(Ⅰ)	57.2	50.7	+	10.5
SCT04 妻(夫)と私は(Ⅱ)	55.6	45.3	+	12.3
SCT28 暴力(Ⅲ)	54.3	48.2	+	9.4
SCT07 友人(Ⅴ)	53.6	41.1	+	4.9
SCT18 子どもにとつて私は(Ⅰ)	49.6	38.4	+	15.0
SCT27 死ぬときは(Ⅲ)	48.0	36.2	+	7.0
SCT05 しつけ(Ⅰ)	47.4	32.6	+	7.1
SCT32 妻(夫)とふたりでいる(Ⅱ)	47.1	34.6	+	12.3
SCT29 子どもの気持ち(Ⅰ)b	46.7	37.1	+	9.2
SCT02 子育ては(Ⅰ)	46.4	32.8	+	5.6
SCT20 家(夫)と私は(Ⅱ)	45.5	28.1	+	9.6
SCT13 仕事(Ⅵ)	44.0	29.0	+	8.4
SCT16 私は男(女)として(Ⅳ)	43.8	34.2	+	17.6
SCT22 子どもは私を(Ⅰ)	43.7	33.7	+	14.1
SCT01 子どもは私(Ⅲ)	42.8	28.3	+	7.8
SCT14 子どもといふとき私は(Ⅰ)	42.6	32.8	+	12.8
SCT19 思いどおりにいかないと(Ⅲ)	42.2	26.1	-	14.0
SCT12 子どもが生まれてから(Ⅰ)	41.3	27.2	+	10.5
SCT25 困り果てたとき私は(Ⅲ)	39.1	29.7	+	12.2
SCT08 私はひとりである(Ⅳ)	38.0	19.9	+	17.2
SCT08 母と私は(Ⅳ)	35.5	20.3	+	17.8
SCT30 性生活(Ⅱ)	35.1	17.2	+	15.4
SCT24 父と私は(Ⅳ)	34.3	14.7	(+)	15.7
SCT09 私が感情的になるのは(Ⅲ)	33.3	18.3	(+)	16.9
SCT26 子どもがいうことをきかない(Ⅰ)	28.1	15.8	-	15.2

表5-2 不一致率 高位順

項目名	不一致率 (合計)	最大値	最大値の組 み合わせ
SCT08 母と私は(Ⅳ)	17.8	35.5	20.3
SCT16 私は男(女)として(Ⅳ)	17.6	43.8	34.2
SCT10 私はひとりである(Ⅳ)	17.2	38.0	19.9
SCT09 私が感情的になるのは(Ⅲ)	16.9	33.3	18.3
SCT24 父と私は(Ⅳ)	15.7	34.3	14.7
SCT30 性生活(Ⅱ)	15.4	35.1	17.2
SCT26 子どもがいうことをきかない(Ⅰ)	15.2	28.1	15.8
SCT18 子どもにとつて私は(Ⅰ)	15.0	49.6	38.4

SCT22 子どもは私を(Ⅰ)	14.1	43.7	33.7	+
SCT19 思いどおりにいかないと(Ⅲ)	14.0	42.2	26.1	-
SCT14 子どもといふとき私は(Ⅰ)	12.8	42.6	32.8	+
SCT04 妻(夫)と私は(Ⅱ)	12.3	55.6	45.3	+
SCT32 妻(夫)とふたりでいる(Ⅱ)	12.3	47.1	34.6	+
SCT25 困り果てたとき私は(Ⅲ)	12.2	39.1	29.7	+
SCT17 私の居場所(Ⅱ)	11.6	57.6	52.2	+
SCT15 妻(夫)と子どもは(Ⅰ)b	10.7	57.2	51.8	+
SCT03 将来 私には(Ⅲ)	10.5	62.3	60.7	+
SCT23 もしも子どもが(Ⅰ)	10.5	57.2	50.7	+
SCT12 子どもが生まれてから(Ⅰ)	10.5	41.3	27.2	+
SCT20 家(夫)と私は(Ⅱ)	9.6	45.5	28.1	+
SCT28 暴力(Ⅲ)	9.4	54.3	48.2	+
SCT29 子どもは私を(Ⅰ)	9.2	46.7	37.1	+
SCT13 仕事(Ⅵ)	8.4	44.0	29.0	+
SCT01 子どもは私(Ⅲ)	7.8	42.8	28.3	+
SCT05 しつけ(Ⅰ)	7.1	47.4	32.6	+
SCT27 死ぬときは(Ⅲ)	7.0	48.0	36.2	+
SCT06 子どもと私は(Ⅰ)	6.9	58.0	49.6	+
SCT31 私にとつて家族は(Ⅱ)	5.8	77.4	76.1	+
SCT02 子育ては(Ⅰ)	5.6	46.4	32.8	+
SCT21 妻(夫)が病気になる(Ⅱ)	4.9	58.5	52.7	(+)
SCT07 友人(Ⅴ)	4.9	53.6	41.1	+
SCT11 私にとつて子どもは(Ⅰ)	2.9	75.5	73.9	+

表6 夫婦間比較

	肯定的 %	N	同義的 %	N	肯定的 %	N
将来、私は(Ⅲ)	夫 12.7	57	9.6	43	77.7	348
妻 0.2	1	20.8	93	79.0	354	
しつけ(Ⅰ)	夫 7.1	32	29.2	131	63.6	285
妻 8.7	39	44.4	199	46.9	210	
子どもと私は(Ⅰ)	夫 10.0	45	19.2	86	70.8	317
妻 1.6	7	31.9	143	66.5	298	
母と私は(Ⅳ)	夫 21.9	98	43.1	193	35.0	157
妻 12.1	54	28.1	126	59.8	288	
子どもといふとき私は(Ⅰ)	夫 9.2	41	22.5	101	68.3	306
妻 16.5	74	37.7	169	45.8	205	
妻(夫)と子どもは(Ⅰ)	夫 10.0	45	22.1	99	67.9	304
妻 5.4	24	19.4	87	75.2	337	
私は男(女)として(Ⅳ)	夫 17.4	78	15.2	68	67.4	302
妻 16.7	75	35.9	161	47.3	212	
私は家にいる(Ⅱ)	夫 13.6	61	27.5	123	58.9	264
妻 10.9	49	44.6	200	44.4	199	
子どもは私を(Ⅰ)	夫 23.7	106	22.5	101	53.8	241
妻 6.5	29	35.7	160	57.8	259	
父と私は(Ⅳ)	夫 27.9	125	40.2	180	31.9	143
妻 17.4	78	39.3	176	43.3	194	
子どもがいうことをきかない(Ⅰ)	夫 25.2	113	56.7	254	18.1	81
妻 65.6	294	15.6	70	18.8	84	
子どもは私を(Ⅰ)	夫 15.6	70	22.8	102	61.6	276
妻 1.3	6	40.6	182	58.0	260	

表 7-2 F・SCT：各分類における領域ごとの反応頻度

分類	記号	領域Ⅰ育児を含む父子関係	領域Ⅱ家族・夫婦関係	領域Ⅲ父親自身	領域Ⅳ母親自身の親子関係	領域Ⅴ社会(友人・仕事)	合計
		人数	%	人数	%	人数	%
情緒性	小計	10	0.2%	7	0.2%	1	0.1%
	A+	511	9.5%	429	13.7%	28	3.1%
	A±	157	2.9%	344	11.0%	13	1.5%
	A-	55	1.0%	45	1.4%	20	2.2%
小計		723	13.5%	263	8.5%	61	6.8%
情緒的な関係	B1+	340	6.3%	19	0.6%	5	0.6%
	B1±	69	1.3%	61	1.9%	1	0.1%
	B1-	60	1.1%	5	0.2%	0	0.0%
	B2+	8	0.1%	2	0.1%	0	0.0%
叙述的な関係	B2±	401	7.5%	44	1.4%	158	3.5%
	B2-	150	2.8%	61	1.9%	9	0.2%
	B3+	111	2.1%	325	10.4%	1	0.0%
	B3±	13	0.2%	37	1.2%	1	0.0%
相互的な関係	B3-	147	2.7%	9	0.3%	0	0.0%
	小計	1231	22.9%	249	7.9%	300	7.4%
叙述・考え方	C+	989	18.4%	961	30.6%	1549	38.4%
	C±	410	7.6%	124	4.0%	631	15.6%
	C-	37	0.7%	67	2.1%	77	1.9%
	小計	1436	26.7%	1102	36.7%	1857	45.9%
困難・当惑	D	173	3.3%	52	1.7%	124	3.1%
	E+	36	0.7%	41	1.3%	81	2.0%
	E±	10	0.2%	1	0.0%	1	0.1%
	E-	3	0.1%	2	0.1%	2	0.0%
その他	R	192	3.6%	115	3.7%	184	4.6%
	F	96	1.8%	101	3.2%	68	1.7%
	合計	5376	100.0%	3136	100.0%	4032	100.0%

30

表 7-1 M・SCT：各分類における領域ごとの反応頻度

分類	記号	領域Ⅰ育児を含む母子関係	領域Ⅱ家族・夫婦関係	領域Ⅲ母親自身	領域Ⅳ母親自身の親子関係	領域Ⅴ社会(友人・仕事)	合計
		人数	%	人数	%	人数	%
情緒性	小計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	A+	569	10.6%	451	14.4%	122	13.6%
	A±	281	5.2%	301	9.6%	0	0.0%
	A-	197	3.7%	124	4.0%	0	0.0%
小計		1047	19.5%	876	28.0%	122	13.6%
情緒的な関係	B1+	427	7.9%	141	4.5%	0	0.0%
	B1±	35	0.7%	14	0.4%	69	7.7%
	B1-	299	5.5%	23	0.7%	0	0.0%
	B2+	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
叙述的な関係	B2±	412	7.7%	38	1.2%	0	0.0%
	B2-	139	2.6%	23	0.7%	0	0.0%
	B3+	18	0.3%	87	2.8%	0	0.0%
	B3±	275	5.1%	266	8.5%	0	0.0%
相互的な関係	B3-	19	0.4%	67	2.1%	0	0.0%
	小計	1515	28.5%	533	17.4%	69	7.7%
叙述・考え方	C+	1243	23.1%	660	21.0%	1046	25.9%
	C±	240	4.5%	72	2.3%	456	11.3%
	C-	15	0.3%	61	1.9%	121	3.0%
	小計	1498	27.9%	793	25.2%	1623	39.2%
困難・当惑	D	173	3.2%	39	1.2%	69	1.7%
	E+	268	5.0%	180	5.7%	192	4.8%
	E±	184	3.4%	69	2.2%	116	2.9%
	E-	169	3.1%	85	2.7%	84	2.1%
その他	R	127	2.4%	97	3.1%	134	3.3%
	F	54	1.0%	47	1.5%	40	1.0%
	合計	5376	100.0%	3136	100.0%	4032	100.0%

29